

鍼灸のエスノメソドロジー

(平成 18 年度 地域調査実習報告書 &

大学院人間・自然環境研究科地域社会論Ⅲ・社会組織論レポート集)

目次

	執筆者一覧	榎田 美雄…………… 1
第Ⅰ部	本文を読む前に	
	まえがき	榎田 美雄…………… 2
	トランスクリプト記号一覧	榎田 美雄…………… 4
第Ⅱ部	本文	
第1章	「鍼灸のエスノメソドロロジー」のために	榎田 美雄・谷井 楨佑子・齋藤 雅彦…………… 5
第2章	東洋医学としての鍼灸	
	—大崎一葉氏インタビュー（2006年6月9日）のトランスクリプト—	齋藤 雅彦…………… 7
第Ⅲ部	大学院人間・自然環境研究科 地域社会論Ⅲ・社会組織論レポート集	
第1章	インタビュー実践のフィルードワーク	
	—阿波おどり有名連の女性連長と副連長へのインタビューを素材として—	藤代 滋…………… 32
第2章	インタビュー論 ——対話的構築主義という立場に示唆をうけて	中恵 真理子…………… 42
第Ⅳ部	付録	
	添付DVD収録データ一覧	志村 裕子…………… 48

執筆者一覧

総合科学部人間社会学科 2年（地域システムコース）

齋藤 雅彦（さいとう まさひこ）

総合科学部人間社会学科 3年（地域システムコース）

谷井 慎佑子（たにい まゆこ）

大学院人間・自然環境研究科 2年

佐竹 文子（さたけ ふみこ）

大学院人間・自然環境研究科 1年

藤代 滋（ふじしろ しげる）

大学院「地域社会論Ⅲ（社会組織論）」科目等履修生

中恵 真理子（なかえ まりこ）

指導教員

榎田 美雄（かしだ よしお）

[kashida.yoshio@nifty.ne.jp]

第 I 部 本文を読む前に

まえがき

徳島大学総合科学部人間社会学科・社会学研究室
助教授 榎田美雄 (kashida.yoshio@nifty.ne.jp)
WWW サイト (本冊子の PDF ファイル公開予定)
<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

この報告書の前半は、地域調査実習という学部の授業に関連して、『鍼灸治療場面』および『鍼灸教育場面』に関連してなされた1年間の相互行為分析をまとめたものである。後半は、科目名：地域社会論Ⅲ、授業題目：社会組織論、という大学院の授業において提出された自由レポートをまとめたものである。総タイトル『鍼灸のエスノメソドロロジー』は、慣例から前半の内容に基づいて付けられたものであって、副題（『地域調査実習報告書&大学院地域社会論Ⅲ（社会組織論）レポート集』）の方が正確に内容を表すものになっている。学生・院生の労力奉仕によって150部作成した。以下、簡単に各部分の内容紹介と本報告書作成に至る経緯の説明を行い、さらに、謝辞および、利用上の注意等を記していくこととしたい。

まず、内容紹介と経緯の説明等から。

本報告書の第1部は、「まえがき」と「トランスクリプト記号一覧」である。「トランスクリプト記号一覧」は、第1部第2章のインタビュー記録および、第2部第2章の中恵論文で用いられている記号の解説である。ただし、中恵論文掲載のトランスクリプトには、より複雑な記号体系が用いられており、その部分については中恵論文の末尾に解説がなされているので、ここでは解説が割愛されている。

第2部には、「鍼灸のエスノメソドロロジー」のために、という地域調査実習関係者3名による研究経過報告と、「東洋医学としての鍼灸」というタイトルのインタビュー記録が掲載されている。今年は2007年1月初頭の研究の取りまとめ段階で、榎田の病気休養（胆嚢炎・胆管炎）等があり、実習の成果を論文の形にまでまとめあげることができなかった。2007年度の学部演習のテーマとして、続けて「鍼灸のエスノメソドロロジー」を掲げ続けることで、この遅れを取り返していきたい。

第3部には、榎田が隔年で開講している大学院の授業「地域社会論Ⅲ（社会組織論）」のレポートをまとめて掲載した。藤代論文は、阿波踊りの有名連の幹部にインタビューした結果をまとめたものであり、民俗学研究としても興味深い。中恵論文は生活保護の現場担当者にインタビューした結果を自己省察を交えながら再考察したものであり、近年のインタビュー研究の趨勢を反映したものである。トランスクリプトから漏れ出てくる現場の息づかいを味わって欲しい。

これらの優秀なレポートが出されてきた背景には、今年の授業の進め方が影響していると考えられるので、以下そのことに少し触れておきたい。今年の大学院の授業では、大テーマを“学位論文を読む！”と掲げ、その方針のもとで学習を進めた。ちょうど2004年に上谷香陽氏（立教大学）が『ドロシー・スミスの「フェミニスト社会学」－性別の捉え方・論じ方の形式をめぐる－』という、（おそらくはわが国で初めてのドロシー・スミスに関する）博士論文を執筆なさっていたので、授業開始前に上谷氏のご厚意でそのコピー版を送ってもらい、配布し、毎週1章ずつ輪読する形式で演習風に授業を行っていった。学位論文を大学院の授業で扱うことに関しては、3つの大きな教育上のメリットがあると榎田は考えている。第一に、最新の学術的成果を学べること（出版されているものは、論文で1～2年、書籍で5～6年遅れていると思う）、第二に、出版事情の悪く（本が薄くなりがちな傾向のもと）、索引や文献表の充実した学術的にしっかりした論文の様式をその必要性ごと学べること、第三に、本物の学位論文を読むことで、良い点も悪い点も両方含

めて「論文というものの書き方・読み方」を、学生を強く動機付けながら、検討していくことができること（これは身につく！）、この3点である。じっさい、学位論文を用いた授業の効果は高く、院生達は、誰もがよく学習し、執筆技術を身につけ、思考を深めていった。今年の大学院の授業ではこのほかに印刷されたテキストとして平 英美・中河 伸俊編『新版 構築主義の社会学』（世界思想社）を取り上げ、その中の一部の論文を輪読した。また、実技部門では、学部の地域調査実習の授業と連動させる形で、インタビュー方法講習（実習を含む）およびビデオ撮影講習を行った。これらの成果を総括する学期末イベントとして、「上谷博士と語る会」を2005年7月12日に開催し、親しく博士のお話を伺った。また、夏休みの課題として自由題レポートを課し、その成果をこの報告書に掲載することとした。なお、大学院生（修士2年）の佐竹文子氏のレポートは、提出後、上野加代子氏と榎田によって補筆・改訂され、『徳島大学 社会科学研究』20号（2007年2月発行）に掲載されている。この論文は、印刷版発行と同時に、下記のHPサイトでそのPDFファイルも公開されているため、本冊には搭載しなかった。墨字版の抜刷は、希望者全員に送付できるだけの冊数を榎田が確保しているので、ご入り用の方は、榎田（kashida@ias.tokushima-u.ac.jp）まで「氏名、送付先住所、希望抜刷冊数」を明記の上、お申し出頂きたい。おおむね1週間以内には、発送したいと思っている。（佐竹・上野・榎田2007「児童虐待事例のつくられかたーD.スミス「Kは精神病だ」の分析方法を基軸としてー」はPDFファイルの形で、徳島大学総合科学部管理の以下のWWWサイトアドレスにすでに掲載されている「<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/bulletin/pdf/socj20-2.pdf>」）。

また、本報告書には付録としてDVDがついている（PC専用のデータDVD。音楽用電機製品には対応していませんのでご注意ください）。この中には、1998年3月の『エスノメソドロロジーとその周辺』から、2006年の「鍼灸インタビュー」まで、ほぼ10年分の社会学研究室の研究成果がPDFファイルの形で入っている（透明テキスト貼り付けファイルになっているため「adobe acrobat」等でキーワード検索が可能）。これらは榎田が徳島大学で社会学の教員になってからつくってきた『実習報告書』・『ゼミ論集』のすべてを電子ファイル化したものであり、その一部をHP（<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>）で公開してきたものである。こちらは、墨字版の残部がもはやほとんど存在しないため、電子的に印字してご活用いただければ幸いである。

以下、慣例に従い、謝辞を述べる。

調査に応じて下さった多数の方々（実習関係では、恒石真、篠原新作、大崎一葉、上別府芳子の各氏および森ノ宮医療学園専門学校の関係者の方々、大学院授業関係では、匿名性保持のためお名前を記すことができないが、インタビューに応じて下さった多くの関係者の方々）の御協力があって、今年も『地域調査実習』および『社会組織論』の授業運営をなんとか進めることができた。厚く御礼申し上げます。また、報告書のまとめおよび論文作成にあたっては、上述の上谷氏だけでなく、国際基督教大学の岡田光弘氏からも助力を賜った。氏には、年末の忙しいときに（2006年12月3日）徳島まで来てもらい、ビデオを見ながらの長時間にわたるデータセッションに、最初から最後までおつきあい頂いた。セッション後の鍋が懐かしい。ご芳情に感謝したい。また、2006年4月から、研究室の業務を一手に取り仕切ってくれている志村裕子氏への謝辞も怠ることはできない。諸事情から今年は研究室をあけての出張が多かったが、彼女のパンクチュアルさに大いに助けられた。本報告書がなんとか年度内に発行ができた背景には、彼女の貢献がある。続けてお世話になり続けたいと思っている。

なお、本報告書掲載の調査および研究の一部は、文部科学省科学研究費補助金「医学教育のエスノメソドロロジー」および「高等教育改革のコミュニケーション分析」ほかによって可能になったものである。諸機関からの人的・財政的サポートに感謝する。

*** この報告書で使用されているトランスクリプト記号 ***

・以下は、本実習報告書で使われているトランスクリプト記号の凡例である

? 語尾の音が上がって区切りがついたことを示す

< 急いで発話が始まっている状態を示す

下線 比較的大きな音、または強調されている部分

:: (コロンの列) 直前の音が延ばされていることを示す

gh 喉音

ha,hah,heh,huh など 笑いなど

[2人以上の参加者の発話の重なりが始まる個所を記す。

= 言葉と言葉、または発話と発話が途切れなくつながっている個所を示す

(数字) その数字の秒数だけ沈黙があることを示す

(.) 非常に短い間合い

(()) そのつど必要な注記であることを示す

() 何か言葉が話されているが、はっきり聞き取れないことを示す

第Ⅱ部 本文

「鍼灸のエスノメソドロジー」のために

樫田 美雄・谷井 慎佑子・齋藤 雅彦

(文責：樫田美雄)

1. 前史（調査を開始するまで）

本年度の地域調査実習は、「鍼灸のエスノメソドロジー」をテーマに実施した。このテーマ設定に関しては、2006年1月7日から8日にかけて、大阪大学コミュニケーションデザインセンター主催で開催された『福祉・看護・医療に関する人類学ワークショップ』（池田光穂教授が担当者）において、高知大学医学部教授の佐藤純一氏からうけた助言の影響が大きかった。2年に1回廻ってくる調査実習のテーマ設定では、毎回頭を悩ませているが、今年設定した鍼灸のテーマは奥が深くとてもよかったと思っている。

2006年4月5日水曜日の「地域システムコースガイダンス」において、新2年生および、新3年生に授業概要を説明し、希望者を募った結果、谷井慎佑子と齋藤雅彦の両君が3つの選択肢の中から、樫田のこの実習を選んで応募してきたため、樫田を含めて総勢3名の調査チームが結成された。毎週金曜日午後の2コマを中心に調査研究活動を進めることとなった。

今回の調査のねらいは、「鍼灸」という、近年注目を集め、かつ、制度的背景の変化が大きい割には、学術的調査が不十分にしかなされていない対象を、社会学の観点からしっかりと把握し、その2006年の実相を明らかにすること、であった。このねらいの背景を説明すれば、下記のようなだろう。手元に資料がないので、数値は正確ではないかもしれないが、アメリカ等での調査によれば（鍼灸のような）「代替相補医療」には、総医療費の10%内外の支出がなされているという。近代社会において医療費は巨額なので、この代替相補医療も大きな産業となることになる。もちろん主流の医療は「西洋医学」であるが、このように「非西洋医学」が大きな位置を占めてくる背景には、近年の疾病構造の変化があるようである。すなわち、西洋医学的積極的治療では目立った効果のあがらない「生活習慣病」が増えてきているなかで、人々が「QOL（クオリティ・オブ・ライフ）」の向上を求めようとするとき、「代替医療」が選択肢になる、という構造があるようなのである（この部分は上記のワークショップにおいて、佐藤教授からうかがった話がベースとなっている）。もちろん、このような基盤的構造は日本も（先進国のひとつとして）当然に分ち持ちっており、かつ、日本での「相補代替医療」の重要な選択肢として「鍼灸」があるのであった。「鍼灸」、すなわち、「はり」と「灸」に注目が集まることの背景には上記のような構造的状況がある。

このような外的環境変化にともなう重要性増大と同時進行で、「鍼灸」を支える制度的内容にも変化が生じており、それもまた現在鍼灸を研究することの価値を高めているように思われた。「医療」の世界に選択肢を増やし、サービス業としての側面を強化していこうという、明示的・非明示的な政府の方針転換が背景に（おそらくは）あって、近年は「鍼灸の施術者」⇔「視覚障害者」という枠付けが実質的になくなってきており、鍼灸師養成の専門学校・大学は急増しつつあるようであった。この変化のなかで、『鍼灸教育場面』も研究の重要性を増して来つつあることが予想された。大量の、従来の学生層とは別の層からもやってくる「鍼灸専門学校の学生」に対して、どのような教育上の工夫がなされつつあるのか、というテーマを探究したいという希望は、そこで「OSCE」（一種の実地能力テスト）も行われているということを知り、樫田のなかで強まっていた（樫田は現在「高等教育改革のコミュニケーション分析」というテーマで研究を行っている。その科研研究の枠組みとも連続するものがあるように思われた）。以上のような情勢と理解のもとで、我々は具体的研究テーマを「鍼灸治療場面の研究」と「鍼灸教育場面の研究」の2つに絞り、今回の調査研究活動を進めることとしたのである。

2. 調査活動の概要—スキントッチ運動調査、お灸のお接待調査、森ノ宮医療学園調査—

我々の調査ははまだ継続中であるが、大きく分けて3つの対象を持っている。第一の対象は「スキントッチ運動」であり、第二の対象は「お灸のお接待」であり、第三の対象は「森ノ宮医療学園調査」である。以下、この順番に調査の概要を述べることにする。

まず、「スキントッチ運動」から。

驚くべきことに、徳島県は、「スキントッチ」という「鍼灸」の新しいムーブメントの発祥の地であった。「スキントッチ」運動の技術的側面である「スキントッチ」とは、「小児鍼」をベースに、特別の道具を使うのではなく、スプーンとドライヤーと歯ブラシをつかって、お母さんが子供の「疳の虫」をコントロールする技術である。「スキントッチ運動」はこの技術を公民館等で開催する教室で広めていく運動であり、現在「子育て支援」の枠組みのもとで、全国各地で「鍼灸師の社会貢献活動」として進められているものである。我々は全くの飛び込みで（電話帳で探してお電話をした）、篠原新作先生（しのはら鍼灸院院長）と知り合うことができたが、篠原先生こそは、この「スキントッチ運動」の幹部として全国的な活動をなさっている方であった。我々はまず篠原先生経由で「スキントッチ運動」を知り、続けて「全国スキントッチ協議会議長」の恒石真先生、篠原先生のお弟子さんの大崎一葉先生、東京でスキントッチ運動を活動的に展開し、（個人でも東京で開業していらっしゃる）上別府芳子先生と、連続して知り合うことができた。この全員にインタビューを行ったが、そのうち、大崎一葉先生に学生の齋藤雅彦がインタビューした結果は、トランスクリプトが次章（第2部第2章）に掲載されており、そのもとになった音声は、DVD中にMP3というファイル形式で搭載されている。これらを見るならば、東洋医学基盤の鍼灸師を目指す現代のまじめな若者が、どのような感じで生きてきたのか、生きようとしているのか、そして、よい鍼灸師になるべく訓練を続けていっているのか、その一端を知ることができよう（他のインタビューの成果は、2007年中に発表していくこととしたい）。また、スキントッチ講習会の様々な場面で（徳島県上勝町、徳島県徳島市、大阪府大阪市）ビデオ撮影を行い、現在分析を行っている。

つぎに、「お灸のお接待」について。

上述の恒石真氏は、3月から11月の間、お遍路さんを主たる対象に、八十八カ所巡りのうちの第一番のお寺である「霊山寺」（徳島県鳴門市）の一室をかりて（隔週日曜日に）、「お灸のお接待」という活動をしている。我々はこの調査において、実際の「治療場面」をビデオ撮りすることができた。調査は9月と11月の二度おこなわれ、のべで12時間分ほどの動画データを得ることができた。解析はまだ途中であるが、「鍼」を打っても痛みがないこと、を、一緒にやってきた友人に訴える「被施術者」のシーンなどが撮影されており、興味深い。（痛みがあることの表示だけではなく、痛みがないことも人は表示できるのである）

最後に、「森ノ宮医療学園調査」について。

「鍼灸治療場面研究」と並んで、「鍼灸教育場面研究」は、我々の調査のもう一つの柱であった。我々はそのフィールドとしての森ノ宮医療学園を、鍼灸におけるOSCEの実施についての指導を広くなさっている藤崎和彦先生（岐阜大学医学部教授・医学教育学）から紹介された。森ノ宮医療学園は、上記の恒石氏の通っていた学校でもあり、また、実務教育に熱心な先生方がたくさんいらっしゃることも有名であった。我々は、この学校にあった（全国でただ一つの）『鍼灸ミュージアム』を見学させて頂き、「鍼灸実習」の授業を取材させて頂いた。授業調査においては、「からだ」を媒介になされるコミュニケーションがどのようなメカニズムでなされているのかが、探究テーマとなった。この成果も現在作成途中であるが、現在のような「初期的分析段階」においても、自分が被施術者である場合には「中空視線」を採用しているベッド上の学生が、自分を「共同学習者」とする際には、「患部」を見たり、そばにやってきた「教師」を見たりする、という「視線の秩序」が観察され、興味深い。

3. まとめ

ここまで、「鍼灸のエスノメソドロジー」研究のこれまでの進行状況を、その意義と合わせて書いてきた。鍼灸コミュニケーションにおいては、身体と鍼（あるいは灸）を用いた相互行為が中心であるため、分析は繰り返しのビデオチェックを必要とするものになる。したがって、繰り返しのビデオチェックが容易になるように、全ての動画データをハードディスクレコーディングされた形（MPEG2ファイル）に変換する所から作業を始めなければならない、この過程に思いの外時間を食われてしまった。しかし、現在60GBほどの動画ファイルを我々は所有するようになっており、素早くファイルを探して、データをチェックすることが可能になってきている。研究のまとめをいそぎたい。

第2章 東洋医学としての鍼灸

－大崎一葉氏インタビュー（2006年6月9日）のトランスクリプトー

日時 : 2006年6月9日午後

場所 : しのはら鍼灸院

トランスクリプト作成 : 斎藤 雅彦

001G : あ、えっと今日はよろしくお願ひ[します。

002D : [よろしくお願ひします。

003G : で、えっとまず最初に、

004D : はい。

005G : えっと、鍼灸治療の考え方についてお聞きしたいと思います。

006D : はい。

007G : でまず、ちょっと、いきなり漠然な質問でちょっと [申し訳ないんですけど、

008D : [はい。

009G : 鍼灸とはどのようなものでしょうか。

010D : うーん。あの、鍼灸治療っていうのは、あの一言で鍼灸といっても、凄く色んなやり方があるんです。であの西洋医学的な考え方もあり [ますし、 =

011G : [はい。

012D : =あの東洋医学的な考え方もあります [し、 =

013G : [はい。

014D : =その流派、古典的な、うちはあの古典的な東洋医学の治療をしてるんですけど、

015G : はい。

016D : あの、西洋医学的っていうのは、こう筋肉とか、そういうのにアプローチしてやっていくやり方で、こう、パルス、電気びゅっぴゅっって使ったり、

017G : うんうん。

018D : するのが西洋医学的な。うちはあの東洋医学的な考え方で、うーん。

東洋医学的な考え方でも色んな流派があるんです。

019G : はい。

020D : 鍼を受けられたことはありますか。 [ない。 ないですか。 =

021G : [自分ないです。

022D : =若い人はあまりいないですよ。だから TV とかでね、あの、よくこうブスってして、ギャーって言っているような、 [あんな鍼もあるんですけど、 =

023G : [はい。

024D : =あの一、うちの治療っていうのは、あの赤ちゃんとかおじいちゃん、おばあちゃんも来られるぐらい、こう、刺す、鍼を打つっていってもね、もう 0.何ミリ

- の世界で、あんなにブスブス刺したりはしない、
- 025G : はあー。
- 026D : だからあの、また治療、うん。[huh=
- 027G : [huh
- 028D : =あの、なんだろ、なんだろ鍼灸治療、うちの治療は、あの、バランスを整えていく、[体の持っている、こう、治癒力を高めていく治療なんです。=
- 029G : [はい。
- 030D : =だからあの、木でもね、葉っぱがこう、例えば、あー肩がこるっていう肩こりですって言って、その木に例えたら、木の、こう、葉っぱがちょっとなんていうか、枯れてきているとかそういう状態なんです。体の一部分。
- 031G : [はい。
- 032D : [そしたら、その治療によっては、その枯れている葉っぱをじゃあ取り除きましょうっていう、痛みを取り除きましょうっていう治療もあるんですけど、あの、古典治療、経絡治療って [言うんですけど、=
- 033G : [はい。
- 034D : =経絡治療はその痛んでる葉っぱももちろん取り除いたり、手当てしたりするんですけど、そしたら、じゃあなんでその葉っぱは枯れたのかな、病気になったのかなっていう、そっちのほうを大事にするんですね、そしたら葉っぱに症状は出てるけど、目に見えない所の木の幹の部分や根っこの部分に何か原因があるはずやって、その葉っぱの治療ももちろんするけど、目に見えない所の根っこや木の部分の、をもっと根本的に治していきましょうっていう、バランスをとっていきましょうっていう治療なんですね。
- 035G : あー、[ありがとうございます。
- 036D : [うーん。はい。
- 037G : はい。じゃあ、えっと、次の質問、
- 038D : うん。
- 039G : ですが、えっと、実際にその鍼灸の、
- 040D : うん。
- 041G : 治療するとき [とかは、=
- 042D : [はい。
- 043G : =どういう治療法があるのでしょうか。
- 044D : それもね、その、その流派によって全然違うんですけど、
- 045G : はい。
- 046D : うちの、あの脈をみたり、えっとこの望診って言って、ぱっと見て、その体の体質っていうのを顔からも情報が得られますんで、で、あの顔の、目とか口とか鼻とか特徴を見て、大体こういうタイプの人やな、でその同じタイプの人での皮

膚の艶とか色とか目の色とか色々見て、あの今日はこういう状態だなんていうのを、　　まずお会いした時に、うん、後歩き方とか。

047G : はあー。

048D : んで、その後に、こう脈をみるんですね、脈っていうのも、こう西洋医学的なこう、
　　血圧をみるわけではなくて、こう、

049K : お仕事があればどうぞお仕事のほうを優先してください。

050D : はい？

051K : あの、お仕事のほうを優先 [で。

052D : [あ、いいですか。

053K : 大丈夫です。

054S : 10 分ぐらいあったら、

055K : はい。

056S : いけるけん、どうしようか？

057K : 次ご予約があるわけですよね？

058S : うん、えっとね。今ちょっと鍼打っておいとるけんね、10 分ぐらいあったらお話しできるんで、

059K : あ、そうですか。うちのあの、

060S : はい。

061K : 谷井が伺いますんでよろしくお願ひします。続けてお願ひします。

062D : 顔みてね、望診っていうんと、脈、脈をみて、あの、脈診っていうんですけどね、
　　あの、その、血圧がどうか、心臓がどうっていうんじゃないで、この体の中の
　　バランスのどこが、こうバランスがおかしくなっているかっていうのを脈でね、
　　こう指 6 本使って 12 箇所脈をみます。

063G : [はあ。

064D : [とお腹、お腹とかにも内臓の反応が出て来るんで、あ、この人はここが冷えてる
　　とか、ストレスを受けてるとか、ちょっと悩み事があって、こう鬱々してるとか
　　ね、　　そういうのも全部 [体に出るんです。

065G : [はあ。そういう精神的なこともわかるんですか？

066D : わかります。[ふーん。

067G : [はあ。すごい。

068D : [あ、その鍼がみんなっていうわけじゃないですよ、＝

069G : [ありがと (途切れる)

070D : =経絡治療は、[の場合。

071G : [あ、はい。ありがとうございました。

072D : はい。

073G : えっと、じゃあ次、先ほど、えっと流派とか、

074D : はい。

075G : 違いがあるって言ったんですけど、

076D : はい。

077G : 他にも地域との違いとかもあるんでしょうか？

078D : あー、ありますねー。あの一大阪とかはね、わりあいあの、かーって堪える鍼、
効く効くってような鍼じゃないと受けた気がせん、みたいな人が多いんです。

079G : それ、それは痛いってということですか？

080D : そ、痛い、あの、鍼をね、基本的に痛い鍼っていうのはね下手な人なんです。

081G : そ、そうですよね。

082D : うん。注射でもね、こう痛い人と痛くない人と、

083G : はいはい。

084D : あれは腕の違いなんで、鍼は痛いもんやっていうのはね、その人の努力が足らへん
っていう。だからあの、なんていうんですかね。まーそういう、地域、鍼にね効く
っていう痛みと違って、鍼にひびきっていうのが [あるんですけど、

085G : [あー、あー、あー。

086D : うん。 [そういうのも、

087G : [ちょっと勉強したんで、

088D : あ、ほんま [ですか。

089G : [ひびきは。

090D : うーん。鍼のひびきはね、こうきつーく響かせる手技もできるんです。 =

091G : [あー、そうなんですか。

092D : = [わざとね。 うん。 で、きつく響かせたほうが好きっていう人が、 =

093G : [あー。

094D : = [割りと大阪のほうで、徳島はね、あんまり昔からは無いんですね。四国でした
らね、今治が盛ん。 =

095G : [あー。

096D : = [今治、 [あの愛媛が盛ん。

097G : [あー、はい。

098D : あの、風邪ひいたらね、お医者さん行かずに、鍼灸院に行くっていうぐらいこう。

099G : あー [凄いな盛んなんですね。

100D : [うん。 盛んですね。 うん。

101G : はい。 [じゃあ、ありがとうございます。 で、えっと、えっと先ほど =

102D : [うん。

103G : = [鍼灸にも西洋的な =

104D : [うん。

105D : = [ものとか、 =

106D : [はいはいはい。

107G : = 東洋的なものとかあるっておっしゃいましたけど、それも西洋医学、

108D : [はい。

109G : [ってあるじゃないですか? =

110D : [はい。

111G : = [それと鍼灸との違いは=

112D : [うん。

113G : = [どのようなものだと思いますか?

114D : うーん、あのね、鍼灸師でもこう、西洋医学と鍼灸ってこう根本的な所が違うんで、それをこう西洋医学的に説明しようとする鍼灸師もいるし、もう西洋医学とは全く別の物として考える先生もいるんですけど、例えば、こう西洋医学では、体が患者さんの、こう体調が悪いっていても、あるラインを超えないと病名がつかない=

115G : はあ。

116D : = [ですよ。

117G : [はい。

118D : ここがこう、なんていうん、この線があってこの線があって、うーん、ここの所は、うーん、何て説明したらいいんですかね。健康とちょっとしんどいっていうのがあるとしたら、健康とかちょっとしんどい、おかしいと思う所を通りすぎて病名がつく [わけじゃないですか。

119G : [はい。

120D : 病院だったら、その病名がつくまでの症状が出てないと病名がつかない [けど、=

121G : [はい。

122D : = 病名、健康とか、病名がつくまでの間はやっぱり病名ついてなくてもしんどいことって、

123G : はい、あります。

124D : うん。そういうところを西洋医学ではしんどいって言っても、症状が出てない、数値に出てない、=

125G : [はい。

126D : = [検査しても数値出てなかったら、病名のつけようがないから、治療のしようがない、病名がないと [治療っていう。

127G : [はい。

128D : 鍼灸っていうのは病名じゃなくて症状で診ていきますので、西洋医学的な病名がついてて、まあ、それも参考にしますけど、

129G : はい。

130D : その人の体の状態によって臨機応変に対応していけるんで、いうたらまあオーダー

メイド

131G : [ああ、はい。

132D : [その人の体に合ったその日その時だけの治療っていう、そのときに一番合った治療をしていきますのでね、だからその、西洋医学ももちろん大事ですけど、西洋医学ではこう、ちょっと難しい、まあその [心の問題とかあるし、

133G : [はい。

134D : こう、鬱まではいかないけどストレスが溜まってしんどい人とか偏頭痛とかそうなんて言うんですかね、こう病名のつかない症状っていうのを鍼灸、特に経絡治療は得意分野なんで、うーん、そういうなんも、なんていうか、こう西洋医学は西洋医学でいいし、それでちょっと補えん部分も、東洋、経絡治療で補っていくっていうのが、

135G : 得意分野が異なるということですか？

136D : [そうですね。

137G : [はい。

138D : 西洋医学では病名がつかない所もやっていけるという所はありますね。

139G : [はい。

140D : [うーん。

141G : ありがとうございます。ではえっと次にえっと話題をちょっと変えて、

142D : はい。((Dが窓を開ける))

143G : 患者さん、あ、すみません。

144D : いえいえ、

145G : ちょっと緊張してるんで。

146D : あ、あのそんな緊張しなくてもいいので、

147G : [えっと次に話題を変えて、 =

148D : [ふん。

149G : = 患者さんの傾向についてお聞き [したいと思うんですけど、 =

150D : [ふんふんふん。

151G : えっと患者さんの話題を先ほど、えっとおっしゃられたと思うん [ですけど、

152D : [ふんふん。

153G : 初めて会ったときおっしゃったと思うんですけど、プライバシーに関わることとかは、 =

154D : [ああ、はいはい。

155G : = [質問控えていただいても、断っていただいてもいいですし、

156D : はい。

157G : えっともしも、こちらのほうでもやっぱりある程度留意していますので、

158D : あ、[ありがとうございます。

159G : [気軽に答え下さい。えっと、まず、えっと聞きたいんですけど、 =

160D : [はい。
161G : = [患者さんは、えっと、このしのはら診療院
162D : ふん。
163G : の患者さんでどのような症状が一番多いでしょうか。
164D : そうですね、年代ではお年寄りと、や子供さん、赤ちゃん、後あの、若い女性の方
うーんでも、まずはお年寄りの場合は、あの例えば、こう、うーんひざが痛いとか、
まあそういう普通のあるんですね、ひざが痛いとか、腰が痛いとか、それ以外に、
こうお年寄りやったらね、どうしても、こう朝早く目が覚めるとか、
165G : あー、はいはい。
166D : 眠りが浅いとか、
167G : はいはい。
168D : えっと、後、口がよう渴くとかね。
169G : はいはいはい。
170D : あのそういう、まあ口が、まあよう乾くってドライマウスって行って、病院でお薬
も出るんですけどね、そういう老人特有な症状、関係が無いようで全部関係がある
んですよ。
171G : はいはい。
172D : で、それ、そういう、うん、病名、病名で言ったらいいんですかね、あー何で
173G : うーん、まあ言えるんだったら病名でもいいですし、=
174D : [そうですね。
175G : = [答えやすい形でいいです。
176D : うんうん。だから、そういう、だから老人特有のそういう症状が一番[多いですね。
177G : [あー。
178D : お年よりは、で女の人だとあの、更年期だとかね。
179G : あー。
180D : うん。どうしてもめまいとかあの、耳鳴り、後こう、血圧が高くなって、であの冷
えるとか、後こうのぼせてしまう、のぼせたり、寒くなったり、のぼせたり、寒く
なったり、そういうのもね全部原因は同じ所なんで、
181G : あー。
182D : うん。そういうのも多いですね、えっと若い女の人やと、やっぱストレス。
183G : [はー。
184D : [うん。後、あの目の使い、パソコンなんかで、
185G : はい。
186D : 目の使いすぎとか、目の疲れ、ストレス、偏頭痛、そういうのも全部根っこは同じ
[なんですよ。
187G : [あ、そうなんですか。

188D : 今言ったんもね、老人の症状も根っこが一緒やし、更年期のあの、女の人のちょっと年配のかたの症状も根っこは [全部一個なんですよ。

189G : [はい。

190D : だから、うーん、耳鳴りがしんどいって、言って来はっても、治療したら、眩暈とかも一緒に治ってきましたし。

191G : うん。

192D : ストレス、ストレスなんかも多いですね。えと、あの鬱だとかね、そういうのも、後子どもさんですと、癩虫てね、こういらいらしてね、きいきいしたり、嘔み付いたり。

193G : あー。

194D : うん。癩虫とか夜鳴き、アトピー、喘息、なんかも。うんうんうん。

195G : ありがとうございます。

196D : うん。

197G : では、えっと症状をいろいろな症状が [あったと思うんですけど、＝

198D : [うんうんうん。

199G : ＝今までこの自分たちが＝

200D : [うん。

201G : ＝ [えっとなんていったらいいんだろ、治療してきた中で一番これはうまくいったとか思うケースとかっては [ありますか。

202D : [あー。

203G : 一番印象に残っている。

204D : そうですね。だいたいね、うまくいったというか、こうね、ずーっと続けてるとね、こう玉ねぎの薄皮をはぐようにね、症状がだんだんよくなっていくんですよ、悪くなるっていうことはまずないですね。そのどれぐらいよくなっていくかっていうのは、やっぱその期間が どれくらいかかるかとかは [個人差がありますからね。

205G : [ああ、はい。

206D : あのこういうの鍼灸 (はりきゅう) ならではで良かったなと思うんは、あの末期がんの患者さんとかの、もう末期で、自宅で呼吸をされる [患者さんも多い、＝

207G : [あー。

208D : ＝でも抗がん剤とかで痛みが、でもお薬は家族がやっぱり飲んで欲しい、

209G : [はい。

210D : [薬は飲まなあかんけど、痛みもきつい＝

211G : [はい。

212D : ＝ [っていうかた、そういうときにね、疼痛感を、痛みを、こう、がんをどうこうって言うんじゃないくて、そのがんの痛みを取り除くっていうことが鍼では [できるときによります。

213G : [はあ。

214D : だから、鍼でよかったと思うことですかね。やっぱり、もう安らかに

[後がね、こう、うん、

215G : [あー。

216D : その、西洋医学でもどうしようもないじゃないですかね。そういうふうに痛みをやっぱ和らげてあげて、最後に、こう安らかな気持ちでね。

217G : [そうですね。

218D : [うん。後は、子供さん、子供さんのね、あの、小児鍼っていう、子供に鍼するんがあると思うんですけど、子供さんが、あの、鍼をね、いろんな種類によって尖ってない鍼もあるんですよ。で、そういうのも、すごい、今徳島が発祥の地で＝

219G : [あ。

220D : = [全国に広がってってる、ホームページまた、スキンタッチっていうところジャンプしてもらったらいけると思うんですけど、それのここ6年ぐらい、しのはら先生と、あ、私は弟子なんですけどね

221G : はい。

222D : すいません、紹介するのが遅くて。篠原先生とあとお二人の3人がね、発端になってスキンタッチっていうのを始めたんです。でそれは、あの鍼の代わりにね、おうちにあるスプーンとか歯ブラシ、後ドライヤー、お灸の代わりにドライヤー使ってね、子供さんにし、お母さんに覚えてもらって、子供さんにしてもらおう。

223G : はあ。

224D : やつなんですけどね、それをちょっとずつこう普及していってて、それが最近全国にもものすごく広がってきてて、東京なんか徳島より活発なぐらいなんですけど。で、直接しよるんとはまた別ですけど、それもやっぱやってよかったなあと、あのやっぱおうちでね、お母さんがしてあげるんが子供さんには一番 [やっぱね。

225G : [そうですね。

226D : お母さんの手がね。それもっと広がっていったらいいなと、今子供さんに関わる事件とかも多いですね。

227G : そうですね。

228D : で、おじいちゃん、おばあちゃんが一緒に住んでたら、おじいちゃん、おばあちゃんもおるけど、おじいちゃん、おばあちゃんもおらんしね、で、お母さんと子供と一对一の昼間ね、家庭も多いですからね、だからやっぱり、子供さんのこれからの子供さんのやっぱ、人と関わる機会が昔より [少ないですからね。

229G : [はいはいはい。

230D : だから、そうやってお母さんが [手かけてあげることね。うん。

231G : [そうですね。スキンシップは大事ですよ。

[ありがとうございます。

258G : [はあ。

259D : そのときはもうしょうがないなと思って、それ以上しなかったんです [けど、 =

260G : [うん。

261D : =ずっと心にこうひっかかっているんはね、ほっとたら今より良くなることはない
んでね

262G : そうですね。

263D : そのときにそうですかって言わんとね、もうちょっとこう介護タクシーとかね、往
診のこう書類を揃えるとかね、もう一步踏み込んでね、なんかできたんちゃうかな
って、すごい今でも心に引っかかっていますね、そのときはやっぱ患者さんが無理
って言うてるのにこっちから踏み込んでいってていうのは、
やっぱ [できないですよ、 =

264G : [そうですね。

265D : =やっぱ踏み込んだらいかんと思って、ああそうですかって終わらせたんですけど
ね、もうちょっとなんかできることあったんちゃうかなと思って、もう今はその方
一人では住め、一人暮らしでね、 =

266G : [はい。

267D : = [あの、出来なくてね、施設は入られたんです [けどね。

268G : [あー、そうですか。

269D : うーん、あのときに、あんまり踏み込みすぎるんも良くないんですけど、もう
ちょっと、もう一步踏み込んでね、なんかしてね、往診やったら往診でもいったら
よかったなと、今でも凄い心にね、今度同じことがあったらもう一步踏み込んで
みようってね思うんです [けどね。

270G : [そうですね、やっぱり患者さんとの関わり合いとかは、

271D : そう、距離がやっぱり [難しいですね。

272G : [そうですね。

273D : あんまり踏み込んだらいかん言うんやけど、もうちょっとできたらちゃうかなあと。

274G : ありがとうございます。

275D : いえいえ。

276G : では、えっと自分が最初に治療したケースとかって覚えていらっしゃいますか？

277D : うん。あの、今もね、来られてる患者さん [なんですけど。

278G : [あ、そうですか。

279D : うんうん。それはどういうふうなことを。

280G : えっと。

281D : 病名じゃなくて

282G : そう、どういう治療をしているかとか。

283D : あの例えばね、その方は最初こられた時はおひざが痛いつてこられたんですけど、

途中から手が痺れるっていう、でちょっと鬱傾向っていらっしやって、で近くにいたお友達がね、あの一人暮らしが、もう高齢でもう息子さんのところ行くってことで引っ越されて、もう近くにお友達その方しかいなかったんでね、もうお友達いなくなって、一人で一日おる、ねえ、もうちょっと塞ぎこみがちになってね、外にも出ない、おひざが痛いから、[歩くんもしんどい、=

284G : [はいはいはい。

285D : =で鬱々してるうちにね、ストレスとかでもね、肩とか体ってストレスで体がキューツとなると、体がこわばって、[硬くなってくるんですね。

286G : [はいはいはい。

287D : ほんで肩も何もして無いのに、肩こって肩こって、手がしびれて、

288G : はい。

289D : ていうふうになってきて、しょそはお膝でこられたんですけどストレスのほうが大きい、

290G : あー。

291D : んで、おひざの治療もしながら、その、お話ですね、() 色々お話も聴いたりしてね、であと肩の治療もして、だんだんこう手がにぎれなかったのが、あの、だんだん握れるよう、動きが良くなってきてね、でおひざもまあ手押し車押しながら、まあぼちぼち歩いて来てくれるようになって、まあ一番変わったんは、やっぱりその塞ぎがちやったんがね、ちょっとこうお庭の手入れをしたりとか、するようになってきてね、うんうんうん。その方は最初。

292G : はあ、素晴らしいですね。

293D : うーん。いやそれはね、やっぱあれなんですよ。バランスが整って [くるから。

294G : [はあ。

295D : うん。

296G : でもやっぱり、[その患者さんとの=

297D : [うん。

298G : =コミュニケーションもしたからですよ。

299D : [大事ですね、

300G : [はい。

301D : 病気を、病気だけを診るんじゃなくて、肩こりが治ればいいっていうもんじゃなくて、病気を診るんじゃなくて、人間を [診るっていう。

302G : [そうですね。

303D : だから、なんて言うんかな、心と体はこう表裏 [一体だからですね。

304G : [はい。

305D : うん。

306G : その患者さんとの会話とかは何気ない日常的なこととか。

307D : うん。あの患者さん、あんまりね、あの関係ない、[昨日のテレビがとか、 =
308G : [はい。
309D : =そういう話はしないんですけど、
310G : はい。
311D : その患者さんの体について欲しい情報が、やっぱ治療やから、
312G : はい。
313D : 欲しい情報を引き出すような会話をする。
314G : はあー。
315D : あと、こう、ちょっとこの人、ちょっとこう食生活とかにね、ちょっと気をつけた
ほうがいいな、改善したほうがいいなっていうことをさりげなく、その会話の中に
混ぜていったり [とかね、 =
316G : [はあー。
317D : =直接こう注意する、こうしたほうがいいですよって言うよりも、あ、患者さんが、
あ、こうしてたほうが体にいいんやなって気がついたほうが、 =
318G : [はあー。
319D : = [自分で気がついて変えるほうが、人に注意されてからするよりもね、自分で気
がついて変えていったほうが長続き [する。
320G : [そうですね。なんか対等な関係ですかね。
321D : そうですね。[気付いてもらう。うん。
322G : [患者さんとお医者さんとが。
323D : 先生の [受け売りなんですけどね。全部
324G : [heh heh heh、ありがとうございます。
325D : はい。
326G : えっと、次に、えっと、一日にどれくらいの人数が [来られますか。
327D : [そうですね、季節によっても
違うんですけど、
328G : あ、そうなんですか、
329D : はい。大体 10 人から 20 人ぐらいですね。うん。
330G : その季節っていうのは、やっぱりどんな時期？
331D : あのね、やっぱりこう、例えばぎっくり腰とか腰痛になりやすい時期とか、
332G : あ、あるんですか。
333D : あります。
334G : 季節があるんですか。
335D : あります、春先。それも東洋医学的に言ったらあるんですけど、長くなるんで、
春先はこう筋肉を痛めやすいとか、そういうのあるんですよ。うん。あと、精神的
なんでいったら五月病っていう [ぐらいねえ、 =

- 336G : [あーあーあー。
- 337D : =みなさんやっぱり疲れがでてきたり、いろいろ、うん。
- 338G : ありがとうございます。では、えっと先ほど、その末期がんの [患者さんの=
- 339D : [うんうんうん。
- 340G : =ケースについてお話いただいたと思うんですけど、
- 341D : はい。
- 342G : やっぱりそういう風に病院で治療を受けてから来院するっていう人は多いんじゃないかな。
- 343D : そうですねえ。あの、うちはね、あの、まずはちゃんと病院で診てもらって、であの原因とかははっきり解ってね、そのうえで治療したほうが [いいと思ってるんでね。
- 344G : [あ、そうですか。
- 345D : なんか解らんけど痛いから来たっていうんじゃないで、そうじゃなくて病院でしっかり診てもらって、病名がついたんやったら、その病名の治療もするし、その病名がついていない部分で [からしんどい所も治療しますしね。
- 346G : [はあ。
- 347D : だから、来院された時も行こうか迷ってられる方には、一度ちゃんと行って、お医者さんに太鼓判押してもらってから、ねえ、あのもういっぺんしましょうねっていうふうにしてるんです。
- 348G : はあ。
- 349D : ふん。
- 350G : ありがとうございます。
- 351D : 診断はね、できないんです。鍼灸師はお医者さんと [違うんで。
- 352G : [あ、そうですか。
- 353D : 病名をつけたり、
- 354G : あ、そうですね。
- 355D : そうそう、診断とかはできない。
- 356G : そうですね、[全体的な感じ。
- 357D : [そうそう。
- 358G : ありがとうございます。
- 359D : はい。
- 360G : では、えっと、施術 (舌をかむ)、[施術について、
- 361D : [huh huh huh
- 362K : えっと西洋医学だからじゃなくって、たぶん医師法との関係だと思います。
- 363D : うんうんうん。
- 364K : あの、診断ができないのは、看護師さんの診断が [できない。

- 365D : [そうですね。]
- 366K : する権利がない。
- 367D : そうです。
- 368K : あ、法律で。
- 369G : はい、[わかります。]
- 370K : [東洋医学、西洋医学とかっていうんじゃないで。
- 371G : はい。
(聞き取り不能)
- 372G : ありがとうございます。
- 373D : いえいえ。
- 374G : えっと、えっと例えばえっと次に施術、施術以外で、
- 375D : ふん。
- 376G : 患者さんとのコミュニケーションもありますというか、ちょっとわかりにくいんですけど、例えば来なくなった患者さんに手紙の郵送とかしたり、電話をかけたり、そういうことは、
- 377D : しません。
- 378G : やっぱり、その関係とかがある [からでしょうか？]
- 379D : [うーん。例えば歯医者さんにずっと通われてて、
で行かなくなって電話かかってきても、困りますよね。]
- 380G : 困ります。
- 381D : だから、患者さんがこっち行こうと思った所から治療が始まっていると思うんです。
このままじゃいかんから、ちゃんと行って歯医者さん、虫歯痛いけど我慢して行かん、もう行こうって思って電話、予約の電話するところから、あ、自分の心の中でこれを治そうって気持ちが始まっている、そこが治療の第一歩だと思うんで、うちは年末年始のこうお休みとかね、そういうハガキは、あの患者さんに[送りますけど、
- 382G : [はあ。はい。]
- 383D : お体いかがですかとか、そういうのは一切しない。
- 384G : はい。ありがとうございます。
- 385D : はい。
- 386G : えっと、じゃあ、えっと次に施術、施術するにあたって、
- 387D : はい。
- 388G : 心がけていることとかありますか。
- 389D : うーん。やっぱり、うちは症状を少しでも楽にするのが、しないといけないんですけど、それだけに囚われない、病を診ずに人を診る、
- 390G : はい。
- 391D : 病も診るだけを診るんじゃないで、病を抱えている一人の人間であって、その

病気だけにキューと治そう、治そうと思って、ちょっとでも楽になったらと思って病気だけを診てると駄目なんちゃうかなと思いますね。病気を、そういう病気があって一人の人間だから、病気も診るんだけど、病気だけを診ずにその人っていう、その人っていう人を診るっていうことですかね。

392G : ありがとうございます。

393D : うん。

394G : で、えっと次に、えっと女性にもマッサージを施しているというのをホームページでお伺いしたんですけど、その女性ならではの気遣いとか、心配りとかされていますでしょうか。

395D : うーん。そうですね。女性にするマッサージっていうのは、あのにゅうもマッサージです。お乳のね。それは女同士でね、お家に行ってすることのほうが多いので、それも普通にしてるんですけど、治療院ではやっぱり、こう男の先生なんでね、女同士のほうが言いやすそうなことは、最初にこう患者さん入られて、あの、鍼の準備したり、こういろいろするんですけどね、そのときにこう女同士のほうが聴きやすいかなっていうことは、お灸は生理の時はちょっとできないんですね、そういうときには生理中なんですとかかそういうのを聞いたりとか、あとまあ、そんな対して、あの、女の人って汗のにおいが気になる、

396G : あー。

397D : でもお仕事帰りとかだったら、こうシャワーも浴びずにねえ、きはるから、そういうのを気にする方とかねえ。何人かいらっしゃるんです。そういう方には、ちょっとハーブの、ハーブの、こうお水のねえコットン [とかねえ=

398G : [はあ。

399D : =ちょっと拭けるのを渡したりだとか、あと昔の女の人やったらここのほう、結構男の方にしてもらうん恥ずかしい、[そういう方はちょっとこう、

400G : [はあ。

401D : (聞き取り不可能) でもそれはあんまり、女やからっていうんでなくて、嫌なんやったらまあ、ちょっとしとこうかなっていうぐらいで、治療がね病院でも看護婦さんがこんな別に嫌ですって言ってしたりしない、それと一緒に、あんまりそれがそのせいで治療いくん嫌やったら、ねえ、

402G : うん。

403D : 患者さんの心の負担になって、ちょこちょこっていうことはしますけど、特にその、女やからこれしてますっていうのはしてないですね。篠原さんのほうが凄いい細やかな [気遣いがあれなんで、

404G : [huh huh huh。

405D : 見てて、あ、そうかって出遅れることが多い。

406G : あー。

407D : うん。

408G : ありがとう [ございます。

409D : [いえ。

410G : 次に、話題を変えて、[あの鍼灸師のえっと、＝

411D : [はい。

412G : ＝おおさかさんですよ。

413D : おおさき。

414G : あ、すみません。

415D : 大にね、長崎の崎。

416G : あ、長崎の崎。

417D : [で、

418G : [あ、すみません。

419D : 下の名前が横一の一に、

420G : はい。

421D : 葉っぱの葉です。一葉。

422G : 一葉。

423D : はい。

424G : ありがとうございます。[大崎さんですね。

425D : [はい、そうです。

426G : [で、大崎さんの

427D : [はい。

428G : 経歴に [ついてお聞きしたいんですけど、＝

429D : [はい。

430G : ＝まず鍼灸師になられた動機について教えてください。

431D : はあー、鍼灸師になってまだそんなに、まだ今 2 年目 [なんですけど、

432G : [あ、そうなんですか。

433D : 学校卒業した後に、あの普通に就職して働いてたんですよ。

434G : はい。

435D : で、6 年間働いてて、そのとき全然鍼灸とかもう興味なくて、ほんであの種、
種屋さんで働いてたんです。

436G : はい。

437D : あの、農協に種を [卸したりとかね、

438G : [はー。

439D : あとビニールハウス建てたりとかそういう会社で勤めてて、であの、そこにね来る
人があの農家の人相手なんで、＝

- 440G : [はい。
- 441D : = [やっぱ農家の人っておじいちゃんおばあちゃんが [多い、
- 442G : [そうですね。
- 443D : あの毎日ね、畑行ってね、肉体労働してるんで、腰が痛かったり、膝が痛かったり、
なんせもう体が悪い、[であちこち痛い、痛んでる人が多かったんです。
- 444G : [はい。
- 445D : ほんで、でもみんな農業が好きやから、痛い痛い言いながらも生き生き元気に
まあ、店にも来てくれて [たんですけど、 =
- 446G : [はい。
- 447D : =あるときそのひとりお客さんがあの、あの入院されてね、であの、退院して車
椅子に載せてもらってお孫さんと一緒に来てくださったんですけどね、まあもう日
があるから畑とか行けない体になってしまって、
- 448G : はあ。
- 449D : そしたら今まで生き生きしてたのが顔つきも全然違うしね、元気もないしね、もう
別人みたいになってて、でそれ見てて、あんだけ生きがい持って生き生き元気に
しとった人があんなに変わるんじゃないかってね。やっぱり今、寿命が皆、日本ね
[延びてるけど、 =
- 450G : [はい。
- 451D : =ただ、やっぱただ生きるだけじゃいかんなど。
- 452G : [生きがいが。
- 453D : [やっぱ元気にね。うん。元気に生きがい持って生きてこそ、
- 454G : はい。
- 455D : なんぼやなと思って、それが最初に興味がわいたきっかけで、そのうちだんだん
そういう思いが強くなってきて、他の人でもそういう人とか出てきて、ほんで色々
学校調べて最初マッサージ、マッサージの免許取ろうと思って、で鍼灸マッサージ
科の学校受けたんですよ、
- 456G : はい。
- 457D : ほんでマッサージの免許取ろうと思って入ったんですけど、さっき言ったその
スキンタッチっていう、
- 458G : はい。
- 459D : のが徳島発祥の地で5月におぎゃつと21って言うのがあるんですけどね、そこで
スキンタッチのボランティアを募集してて、学生の時にほれちょっと行ってみよう
と 思って、行ったのが篠原先生と出会ったきっかけなんですよ。
- 460G : あ、そうなん [ですか。
- 461D : [うん。でそのときはね、まだ鍼するつもりなくて、学生するとき

剣道してて、あの電気の鍼をね、してもらって、それがきつすぎてね、あとでしんどくなってね、＝

462G： [はあ。

463D：＝ [それから鍼が嫌いになったんです [けど、

464G： [はあ。

465D：その鍼、そうこうしてる内に、自分の今度ばあちゃんがガンになって、ほんであのマッサージじゃどうしようもない、篠原先生に相談したらね、して、ほんでマッサージよりも鍼のほうが、こうカバーしていけるものが、面が多たって言って、ほんで鍼いこうって思って、でまあ一応学科は鍼もマッサージも取れる学科だったんで、でまあマッサージじゃなくて鍼いこうと思って、で卒業してここに弟子入りさせてもらったんですけど。

466G：ありがとう [ございます。

467D： [ま、こんな感じです。

468G：ありがとうござい [ます。

469D： [はい。

470G：じゃあ、えっとその鍼灸師の資格を学校で取ったとおっしゃられてましたけれども、えっと、どこの学校とか教えてもらえますか。

471D：あの、あのね、四国はね1つしかなくて、あの高松じゃないわ、宇多津町っていう、[香川県。

472G： [はい。

473D：四国医療専門学校っていうところ。

474G：はい、[ありがとうございます。

475D： [うん。

476G：そこで、やっぱり学校内でも、そのお師匠さんと弟子っていうか、まあ、教授と[学生っていうか、

477D： [は一。

478G：そういう関係あるんと思うんですけど、そういう関係ありますか。

479D：学校はね、うーん、その学校によってもね、特色が色々あって、大阪のほうの学校やったら経絡治療に力入れてる学校とか、スポーツ鍼灸に力入れてる学校とかあるんですけど、四国医療はそんなに特色が無いんが [特色って言いきってるぐらい＝

480G： [はは。

481D：＝の学校でね。特になくて、師匠弟子っていうのはね、なかったですけど、自分がその先生が好きって思ったら、個人的に教えてもらうっていうのはあるんですよ。

482G：はあ。

483D：うん。ほんで、私もそのマッサージの先輩、先輩っていうか先生について教えてもらう会を先輩が作ったのがあってね、そこでマッサージの修行、練習はしてたん

ですけどね、あんまり学校の中ではないですね。学校でてから、っていうか学校在学中に学校の中だけにおらんと、あちこち勉強会行ったり、ボランティア行ったりして、そこでの出会いでこう、学生やったら、こう丸の真ん中にいて 360 度可能性のあるわけじゃないですか。＝

484G : [はあ。

485D : ＝ [西へ行くか、東へ行くか、

486G : はい。

487D : スポーツ行くか、経路行くか。

488G : はい。

489D : そのうちの 360 度のうちの 1 か 2 の先生に学校は出会えるところで、

490G : [はい。

491D : [あと 360 度どっちに行くかっていうのは、学校出て、そのときの勉強会とか出た所で出会える人のほうが多いです。

492G : はあ。[ありがとうございます。

493D : [うん。

494G : はい。えっと、じゃあ、[次の質問いきます。

495D : [はい。

496G : ではえっと鍼灸師になって、

497D : [はい。

498G : [どこにやりがいを感じますか。

499D : どこにやりがい。やっぱりなつたきっかけが、その、ただ長生きするだけじゃなくてこう生きがいを持ってねえ、生き生き長生きできるようね、体が資本やけん、体はね、しっかりして生きがい持って生き生きこう、最後まで生きて欲しいっていうのがきっかけで入ったから、やっぱりこうお年寄りっていうんはこう孤独、うん、一人暮らしのお年寄りも [多いですし。

500G : [そうですね。

501D : 一番世の中で生きてるのに、死に近い所にいるのはお年寄りやのに、一番孤独なんもお年寄りちゃうんかなと思うんですよね。いや、個人的 [にね。＝

502G : [はい。

503D : ＝自分のばあちゃんがひとり暮らしっていうのもあるんですけど。だから、その一番死に近くて色々考えることもあるのに、一人ぼっちで、なんて言うのかな、こう重い、重さとは違うんですよね、人生経験とかあるからやろうけど、だからその、起きてからね孤独、孤独なんは

(電話)

504D : すい [ません。

505G : [はい。

506D : だから、その、なんていうんですかね。なんの質問でしたっけ。

507G : やりがい [ですね。

508D : [やりがい。すみません。だからそういう人は、心と体はそのだから表裏
一体やから、体が元気になったら、心もちょっと出かけようかとか、

509G : うんうんうん。

510D : ちょっとなんていうん、老人のお食事会に [行こうとかかいう風に、

511G : [うんうんうん。

512D : 体が元気になったら心が元気になるし、心が元気になったら [体が元気になる。

513G : [はあ。

514D : だからその、鍼灸し、その体の治療したら心も元気になる。そういう元気、生き
生きしはるの見たらあーよかったと思う。来てくれなかったら治療できないけど、
あー来てくれて良かったと思いますね。うん。

515G : ありがとうございます。えっと、

516D : はあ。

517G : じゃあ、えっと逆に。

518D : あ、あとね、子供、不妊治療で、

519G : はい。

520D : 子供ができないって来てた人に赤ちゃん [授かったときは嬉しかったですね。

521G : [はあ。素晴らしいですね。ありがとう
[ございます。

522D : [あー。うん。

523G : えっと、じゃあ、逆にえっと鍼灸師になってちょっと悪い、悪かったっていったら
[アレなんで=

524D : [うん。

525G : =辛かったこととかはありますか。

526D : 現実とのギャップってことですか。なんか、こんなはずじゃなかったとか。

527G : ああ、それでも。

528D : どうなんですかね、まだねえ、思うまでの経験してないんでねえ。
今は無い [ですね。

529G : [ないですか。

530D : うん。こんなはずでは、だからその、さっきの人のもうちょっとなんかできたん
ちゃうかなって思ったときのあれはありますね、その、なんかこう、入り込んで
行けないラインっていうのがあるから、自分のおじいちゃん、おばあちゃん、
[家族じゃないから、家族だったら言いますけど、

531G : [うんうんうん。

532D : だからそういうのは、そういう所がちょっとギャップっていうか、まあしょうが

- ないんやけど、[割りきらないかんところですよ。
- 533G : [はい。ありがとうございます。じゃあ、えっと、似た質問でもし無ければよろし、いいんですけど苦労したとことか [苦労されて＝
- 534D : [はい。
- 535G : =いるところとかありますか。
- 536D : 苦労。勉強ですかね。あの経絡治療ってね、古典の勉強なんで、
- 537G : はい。
- 538D : あの、昔のね、そのショウカン論とかそのレイスウとか古典をやるんですよ。
- 539G : はい。
- 540D : どうなんかな、ちょっと待ってください。(本を取りにいく) 中国の古典なんですけど、それが元になって経絡治療になってるんですけど、あの昔のこういうのがね、すらすら読めなあかんのですよ。
- 541G : はあ。ありがとうございます。
- 542D : こういう。
- 543G : すいません。
- 544K : 漢文ですね。
- 545D : 漢文なんです。今の現代文の経絡治療の教科書っていうのも出てるんですけど、それじゃなくて、自分でこれを読んで、で解釈して、それを実際の治療に活かしていかなあかんで、とにかく弟子入りした最初にこの本をもっと一杯何冊も種類があって、で最低限こんだけ絶対せなあかんでいうのもあって、でそれをひたすら写すんですよ。で、移したら、今度読み仮名とか返り点とか自分で打って、んでそれを訳して、んでそれを章別とか色んな分類の仕方で分類して覚えていかなあかんのです。で、読めんことには覚え、なんもできんので、とにかく最初はわからんけど全部丸写しして、返り点つけてっていう作業を。こう永遠するんですよ。それを治療が [終わって、＝
- 546G : [huh。
- 547D : =帰ってから毎日やっても、[なかなかもう、＝
- 548G : [あー。
- 549D : =量が膨大なんで、いかん、それを毎日、写経って自分では呼んでるんですけど、うーん、それがちょっとしんどいですね。
- 550G : 勉強は常にもう続いているって [いう。
- 551D : [一生ですね。やっぱり。これがもとになっての経絡治療なんで。
- 552G : ありがとうございます [ます。
- 553D : [漢文これ勉強、今までそんなん、読む機会なんか、学校でちょろっと習うぐらい。

554G : ないですよ。

555D : ほんましんどい。

556G : [huh huh。

557D : [huh huh。

558G : ありがとうございます。では、えっと今までよく似た回答をもらえたと思うんですけど、まとめて鍼灸師にとって大事なことは何だと思えますか。

559D : やっぱ、さっきとっしょ、重複しますけど、

560G : はい。

561D : 病気を診てるんじゃなくて、病気とかそういうのを持った一人の人と向き合ってるってことですかね。

562G : はい。ありがとうございます。

563D : 心と体は＝

564G : [はい。

565D : ＝ [表裏一体って [いうことですかね。

566G : [はい。 [ありがとうございます。

567D : [うん。

568G : ではちょっと最後に [テーマを変えて、

569D : [はい。

570G : 現状、鍼灸についての現状と＝

571D : [うん。

572G : ＝ [未来について、 [ちょっとお聞きしたいと思います。

573D : [うんうんうん。

574G : で、鍼灸をえっと今以上にもっと普及させるべきだとは思えますか。

575D : うーん、あの鍼灸っていうのはぶすぶす刺す＝

576G : [はい。

577D : ＝ [嫌なイメージがあるんですけど、流派によってはそういうやり方もあるんですけどね、こういうそのあの、赤ちゃんにもできるようなね、ほとんど刺す、浅く刺す、その痛くないようなやり方もあるんで、あのそういうのを知ってもらったらね、あのもうちょっとこう、フティシュウソとかね＝

578G : [はい。

579D : ＝ [得意分野なんでいいんちゃうかなと思えますけどね。うん。だから、そういうのをみんな知ってもらえたらいいなと思う。だからスキンタッチも、＝

580G : [あー。

581D : ＝ [おうちでそうやって、小児鍼。

582G : [あー。

583D : [スキンタッチやってもらって、それをきっかけに小児鍼、普通の鍼っていう

ふうに、こう道ができていったらね、いいと思う。特にお年寄り、とあとストレス、

584G : はい。

585D : みんなありますけど、 =

586G : [はい。

587D : = [の人とかはねえ、知って欲しいですね。

588G : ありがとうございます [ます。

589D : [はい。

590G : 次に、鍼灸師の育成はどうしていけばいいと思いますか。

591D : うーん。今あの鍼灸の学校ってね、

592G : はい。

593D : 法律がなんか変わって全国にぼんぼん建ってっているんですけど、あの、なんて
言いますかね、鍼灸師も免許取った所で全てスタートラインに並んだことに
[なるんですけど、

594G : [はいはいはい。

595D : うーん。なんて言うんか、せっかく鍼灸するんだったら、その、西洋医学的なこと
はお医者さんがおってなんやからね、そこでこう、またカバーできんっていうか、
そこでまた違ったジャンルでねえ、病名がつかないけど、しんどい所っていう所、
そういうんを埋める経絡治療、

596S : 大崎さん、

597D : はい。

598S : お顔 [ちょっとやっつけて。

599D : [あ、はい。

600S : ふん。

601D : っていうような道に進む鍼灸師が増えたら [いいなと思いますね。

602G : [はい。

603D : すいません。

604G : はい。

605S : もうちょっとやけんね。

606K : いえ。
(聞き取り不可能)

607G : じゃあ、えっと、現状と未来についてお聞きしていたと思うんですけど、

608D : はい。

609G : 鍼灸と西洋医学はどのようになっていくのが理想ですか、今後。

610D : うーん。あの、なんていうか、鍼灸と西洋医学もそうですし、鍼灸の色々な流派も
そうですけど、こう、お互いこう、やっぱり自分の信じる所があって、その道に
入って、こう腕を磨いてね、日々頑張っていると思うんですけど、それはどの道の

人も一緒ですからね。西洋医学、東洋医学もやってることは違いますが、目的は一つですからね。患者さん。だから、ちょっとこう、垣根がね、まあ、お互い批判しあうんじゃないかと、もっとうん、認め合うっていうか、こう、寄り添いあうっていうか、同じ目的で、一つの目的でやってる、だからそのもうちょっと一人一人がどのジャンルに関わらず、こう、うん、認め合うっていうか、寄り添いあうっていうか、患者さんの事思うんやったら、たぶん、うん、なんて言ったらいいんですかね。

611G : 共存 [するっていうか。]

612D : [そうですね、共存って言うよりかは、うーん。]

613G : 関与しながら、

614D : ううん、もっとだからもっと、そういうためには鍼灸が
[もっと知られていなくちゃいけない。]

615G : [あー。]

616D : (お客さんが来る)こんにちは。ちょっとすみません。

617G : はい。

**第Ⅲ部 大学院人間・自然環境研究科
地域社会論Ⅲ・社会組織論レポート集**

インタビュー実践のフィールドワーク—阿波おどり有名連の女性連長と副連長へのインタビューを素材として—

人間・自然環境研究科 人間環境専攻1年 藤代 滋

1. はじめに

このレポートは、盆踊りから日本を代表する祭りに成長した阿波おどりは、なぜ多くの人を惹き付けるのか、その魅力について徳島市の阿波おどりを中心にした実証研究の一環として阿波おどり連¹のなかの有名連²のひとつである「ゑびす連」の女性の連長と副連長を対象に行ったインタビュー調査の結果をまとめたものである。

今回のインタビュー調査は、結果としては不十分なものではあったが、桜井のいう「技法を客観化することを意味したこれまでの信頼性に代わる基準としては、何が考えられるだろうか。すぐに思いつくのは、データ収集から分析にいたる基礎的な過程をあきらかにしていくことだろう」（桜井 2002：39）という意味からも、また、実際に行ったインタビューの経験をもとに自らの研究法を身につけていくひとつの方法として、調査対象者の選定、事前の準備、依頼の仕方、場所の選び方、服装などについて具体的な調査過程をあきらかにすることとした。

2. インタビュー調査の実践

2-1. 調査対象者の選定

阿波おどり連には、阿波おどり振興協会や徳島県阿波踊り協会に所属する有名連、苔作や娯座留のように組織に所属していない有名連³、有名タレントなどと一緒におどれる参加型の企業連、会社単位で参加する企業連、学生連、高校のクラブ連、すだち連などの障害者連、あらしわ連⁴などといった国際色豊かな連、観光客が参加できるにわか連⁵、県外連などさまざまな形態がある。今回は、そのなかから1年を通じて活動している有名連と呼ばれる阿波おどり連を調査対象にすることとした。徳島市内には、前記のふたつの協会に所属している有名連が33連ある。多くの連は、男踊り・女踊り・女ハッピー踊り・ちびっ子踊りと鳴り物で構成されている。阿呆連のように男踊りと女踊りと鳴り物で構成されている連や葵連のように女着流し踊りという新しい形を取り入れている連もある。そのなかから女性が連長として活躍している連を取りあげることとした。女性が連長の有名連は、鶴瀬幸子さんが連長をしているゑびす連と武市伶子さんが連長をしているみやび連がある。今回は、ゑびす連の鶴瀬連長にお願いすることとした。（なお、その後、有名連のひとつである新のんき連に池田順子さんという女性連長がいることが

分かった。)

また、理論化のステップとして、第1段階で引き出された仮説に注目し、第2段階では必要なデータを得るため語り手の選択は意識的に行うことになる。方法としては鶴瀬連長にもう一度にインタビューするか、他の多岐す連の連員にインタビューするか、ふたつの方法が考えられる。連長に再度インタビューするのが日程的に難しいこともあり、他の女性連員にインタビューすることにした。そのことを鶴瀬連長に依頼したところ、女性の副連長である野藤みきよさんを紹介してくれた。なお、野藤副連長には日を改めてインタビューを行った。

2-2. 事前の準備

①質問項目の準備

日本人留学生の調査を行った森俊太は、調査対象者である人事や採用担当者、日本人留学生の就職情報誌編集者、日本人留学生別に5項目から11項目の詳細な質問を準備している。非指示的インタビューで、相手の主観を探る構築主義理論にもとづいた研究であるにもかかわらず詳細な準備をしたことについて森は「かぎられた時間でインタビューをする場合、準備をしすぎることはない」（森 1997: 59）といている。しかし、その結果は「実際にインタビューを始めると、話が準備した項目のようには進まないことがほとんどであり、メモは話のあいまに聞き漏らしがないかをチェックするために使用」（森 1997: 62）したといている。

今回のインタビューにあたっては、14項目の質問を準備したが、実際には、森がいうようにインタビューをはじめるとなかなか思うようにいかず、質問の順番が前後したり、質問が重複したりしている。連長へのインタビューでは、Q6で予定していた女性の男踊りについてどう思っているのかという質問が、Q3の質問に関連して語られたり、Q8の連員の意識の変化についての質問が、Q5の仕事の苦労の後に続いたりしている。また、ちびっ子に関する話題が連の特徴のところとインタビューの終わりのところに出てくる。副連長へのインタビューについても、Q6で予定していた女性の男踊りの質問が、Q3の女性連長への評価についての質問の後に出てきたりする。質問項目をチェックするために準備したメモが活かせず、結果的には、当初、考えていた質問をどうにか最小限こなしているに過ぎない内容になってしまっている。しかし、森がいうようにインタビューの時間がかぎられており、できるだけ準備しておくことが、事後、比較検討するデータになり、つぎのインタビュー実践に活かせるのではないか。

②事前調査

佐藤郁哉は事前の準備（下調べ）の重要性を強調し、その事例として劇団への取材をあげている。公演チラシなどからタイトル・日時・会場・観客動員数・チケット料金などの公演の概要、キャスト・スタッフの一覧表、推定売上を基礎資料として準備、また、主宰者へのインタビューにあたっては「誰でもそうでしょうが、過去に何度も同じようなことを聞かれた質問を出されて、それに『百編返し^{ひゃっぺんがえ}』のように答えさせられるのは、ウンザリする体験に違いありません」（佐藤 2002：259）ということから、一種の公人である主宰者の過去の発言のおさえ、要約をファイルしておくことや「劇団の主宰者に対するインタビューですから、その劇団の公演を何本か実際に見た上でインタビューするのは、最低限の礼儀です。それぞれの劇団について、最低三本は必ず観ておくようにして、それについての簡単な感想も自分用のメモとして書いておく」（佐藤 2002：259）必要があるといている。

佐藤のいう劇団の公演を「三本」みるのはともかくも阿波おどり会館では毎日、午後8時から「毎日おどる阿波おどり」⁷が上演されており、有名連が交替で出演している。したがってゑびす連のおどりをみる機会があった。また、ゑびす連のホームページが開設されており、連の紹介をはじめ、連の構成、出演予定、練習スケジュール、連員のためのページ、コラムの投稿欄まである。このホームページをみればゑびす連に関するデータはかなりの部分収集できる。にもかかわらず残念ながら両方ともみていなかった。

阿波おどり本番中の8月12日、阿波おどり会館で行われた「毎日おどる阿波おどり」特別公演にゑびす連が出演したので、その第1回目の公演をみせてもらった。40分の公演は見応えがあった。インタビューのなかで鶴瀬連長が「ゑびすの良さは舞台でご覧になって頂いたら、10分の舞台なんですけど、バラエティに富んでいるんで、ゑびすの舞台は手をたたく暇がない、アーと思ったらつぎがでてきよって」⁸といていた。確かに、実際の舞台は、それ以上にすばらしいものであった。躍動感あふれる男踊りはコミカルな演出も取り入れたみせるおどりであり、桜をイメージした女踊りはしなやかで優雅であった。衣装が華やかな女性のハッピー踊りはハッピー踊りならではのさわやかな色気があった、チビっ子の大人顔負けのおどりには驚かされたし、鶴瀬連長のふくよかな体型⁹を活かしたゆっくりとした伝統的なおどりもひと味違って、本当に拍手が鳴りっぱなしであった。午後の公演では「おひねり」が飛んだといわれている。

ゑびす連の公演とホームページを事前にみていれば、同じような質問を繰り返すこともなく、インタビューも違ったものになっていただろう。インタビューは話し手と聞き手の協同作業で成り立っており、聞き手が話し手のことをある程度理解したうえで自由に語ってもらうことが不可欠である。そのためには佐藤のいう入念な「下調べ」が何よりも重要であるといえる。

2-3. 依頼の仕方（アポイントメントをとる）

インタビューの依頼方法について佐藤は「手紙の他に電話やファックス、電子メールなどさまざまなやり方がありますが、それとは別に、郵便やファックスなどで、次の二点の文書を送付しておいた方がいいでしょう——インタビューの趣旨や所要時間などについて簡潔にまとめた依頼文（A4の用紙で一枚程度）、具体的な質問内容をまとめたリスト。最終的には電話でアポイントメントをとる場合でも、できれば、さきに郵便などでとりあえず依頼文だけは送っておいてから電話をかけた方が礼儀にかなっていることは言うまでもありません」（佐藤 2002：264）と非常に丁寧な依頼の仕方を紹介している。一方で彼は「施設調査の場合には、施設を管理する機関から許可さえいただければ、聞きとりの対象者は施設側から『あてがって』もらえるわけです」（佐藤 2002：11）と組織がしっかりしているところを対象にした調査と、一方、暴走族の場合は「暴走族グループの、週に一度の『集会』に定期的に参加するようになったのは一九八三（昭和五八）年の八月からでしたが、それまでの三ヶ月間はさまざまな暴走族グループとインタビューの約束をしてはすっぱかされるという体験の繰り返し」（佐藤 2002：11）だったと対象によって対応が異なるといっている。また、日本人留学生の調査を行った森は「断られる率は、文書での依頼の方が、電話での依頼よりも高かった。電話では、初めてであっても、相手の疑問に答えられるし、直接話している場合には心理的に断りにくい。文書であれば、多少でも納得できなかつたり面倒な場合、協力できないとの回答欄にチェックしてはがきを送り返すだけであるので、断りやすい」（森 1997：58）といっている。

森がいうように電話で依頼するよりも文書での依頼する方が断られやすい。確かに佐藤のいうように電話やファックス、電子メールなどで依頼する場合でも簡潔にまとめた依頼文を送付する方法が念がとどいている。しかし、暴走族のようにそれだけでアポイントメントがとれないこともあり、調査対象によって依頼方法が異なってくる。

今回のインタビューイーであるゑびす連の鶴瀬連長への依頼方法は、インタビューアの職場のOBで、ゑびす連が所属している阿波おどり振興協会の役員をしていたN氏を通じて行った。N氏には、インタビュー調査の趣旨をまとめたメモを手渡して、鶴瀬連長への連絡をお願いした。鶴瀬連長へのインタビューのなかでもN氏のことが話題になった。このように相手をよく知っている人を通じて依頼する方法は、ある日、突然に知らない者からインタビューを依頼されるよりは相手に安心感を与え、インタビューがスムーズにいくと考えられる。また、インタビューの依頼も断りにくい。電話や文書による調査依頼にしても調査対象者の社会的地位や人生経験、年齢、調査者の社会的地位、

年齢、調査対象への知識などや話し手と聞き手の関係も影響するだろう。そうしたなかでスムーズなインタビューを行うには、調査対象者に対する事前の調査を行うなど綿密な準備をしたうえで相手の状況に合わせた多様な依頼方法を講じる必要があるといえる。

なお、野藤副連長へは、鶴瀬連長へのインタビュー終了後、鶴瀬連長を通じてお願いした。野藤副連長も当日、阿波おどり会館で行われていた「毎日おどり阿波おどり」に出演していたので連長から野藤副連長を紹介してもらい、直接、お目に掛かって、インタビューの日程を決めさせて頂いた。

2-4. インタビューの場所

インタビューの場所について、森が「インタビューの場所は、会社の人事担当者や就職情報誌の編集者などの場合はその会議室や応接室、留学生の場合は、会社の近くの喫茶店やホテルのロビー、たまに自宅であった」（森 1997: 58）というようにさまざまな場所が考えられる。今回の場合は、インタビューイーが阿波おどりの関係者であったことから「阿波おどり会館」の2階にある出演者控室を使わせてもらった。ゑびす連は阿波おどり会館で行われている「毎日おどる阿波おどり」に毎月出演しており、館内の状況もよく分かっているうえに、当日、その時間帯に控室を利用するのは、出演連であるゑびす連の関係者以外には会館の職員もほとんど出入りしないというある意味では隔離された空間であるという恵まれた環境にあった。副連長へのインタビューは金曜日の午前中（平日の午前中は、専属連¹⁰である「阿波の風」の舞台も行われておらず、館の職員以外の出入りはない）に行った。インタビュー中に控室に入ってきたのは阿波おどり会館の専属連の服部連長だけであった（準備のためか？）が、服部連長とゑびす連の野遠副連長は顔見知りであったこともあり、とくに支障はなかった。このように恵まれたインタビュー場所は少ないと考えられる。インタビュー場所を選ぶ場合、さまざまな選択肢があることから事前にインタビュー場所を調べるなどの準備が必要である。

2-5. 服装

インタビューを行うときの服装について佐藤は「必ず背広とネクタイ（女性の場合にはそれに相当するような服装）のようなフォーマルな服装でのぞむ必要があるというわけでもありません。むしろ、相手によっては、あまりにフォーマルな服装をしているとかた^{かた}く^{くる}かえって堅^{かた}苦^く¹¹しい、まさに『面接』のような印象を与えかねません。したがって、服装という点に関しては『これが正解』というのはいにくいのですが、この点に関して判断に迷うような場合は、聞きとりの相手やその所属組織の性格についてよく知って

いる人に聞いてみるのもいいかも知れません。なお、たとえよく知っている相手であっても、あらたまって話を聞かせてもらうような場合には、いつもより少しはフォーマルな服装をした方がいいでしょう」（佐藤 2002：267）といている。しかし、最近は環境問題などで、たとえば、クール・ビズでノータイでラフな格好をしているところもあり、佐藤もいうように必ずしもスーツにネクタイという訳でもない。確かに、相手が初対面の場合など判断に悩む場合も考えられる。相手の年齢、性別、職業、インタビューの内容などによっても異なってくるし、聞き手の年齢や立場によっても異なるだろう。TPOが求められる。迷ったときには、佐藤のいうように事情をよく知っている人に聞くのが適切なのかも知れない。今回は、阿波おどり会館に出演する阿波おどり連の連員のほとんどがラフなスタイル（踊りの衣装で来る連員もいる）で来館していることを知っていたのでジーンズにTシャツというラフなスタイルでインタビューさせてもらった。

2-6. インタビュー内容

インタビューは、(i)阿波おどりをはじめたキッカケ、(ii)おどりを辞めたいと思ったことの有無、(iii)おどりを続けていく上での苦労話、(iv)連の構成、(v)連員の意識の変化、(vi)連の特徴、(vii)練習場所や回数、(viii)おどりの変遷、(ix)おどりの魅力などについておこなった。インタビュー時間は、連長へのインタビュー時間が44分、副連長へのインタビュー時間が36分とわずかな時間であったにもかかわらず現場でのインタビュー時間は両方とも1時間以上かかったように感じられた。質問項目の準備のところでも述べたようにインタビューの順番が飛び飛びになったり、同じような質問を繰り返したり、突っ込んで聞くべきところが不十分だったりしたものではあった。

しかし、二人とも長年、阿波おどりを実際におどっており、実際におどっている人の生の話をある程度聞くことができた。とくに研究テーマである阿波おどりの魅力について鶴瀬連長は「私は阿波おどりの魅力は自分が楽しかったらお客さんも楽しい、今の心境というのは、自分が一生懸命おどるのを人に伝える観客に伝える、いつもここ（阿波おどり会館¹²⁾）で最後にごあいさつをさせて頂くんですけどお客さんが喜んでくれる、私も元気におどれる、おどらしてもらっている。舞台上で元気をもらうんです。私もいいおどりをみて頂く、それが私の使命です、一番の」¹³⁾と語っている。一方、野藤副連長も「ことばにするのは難しい。それが、なぜだか分からないんですよ。それこそ、やってもやっても究めようとしても、先がみえないというか、これで完璧というのがないんですよ。自分なりにやり遂げた達成感はあるつつも、でもまだまだという気持ちがやっぱりあるので」¹⁴⁾という。このように阿波おどりの有名連のひとつであるゑびす連の

トップ二人の阿波おどりに対する考え方が聞けたことで、一定の方向性を得られたように思う。今後、さまざまな連に対して継続して調査を行う手掛かりとなった。

3. トランスクリプトの作成

トランスクリプトの作成について桜井厚は「なによりも書きおこし作業は、時空間を異にする場所でインタビューの場を反省的に振り返る貴重な過程でもあるからだ。発見も解釈のアイディアも、この作業の途中で生じることが多い。その点からもトランスクリプト作成は、あくまでも聞き手である調査者がおこなうのが原則」（桜井 2005 : 131）であり、「トランスクリプト作成の大原則は、できるだけ調査者自身が書きおこしをすることと、語り手と聞き手をふくむ全過程を逐語おこしすることである」（桜井 2005 : 133）と調査者自らが書きおこす必要性を強調している。また、「ライフストーリー・インタビューは、状況次第だが一般的には一回につき九〇分から一二〇分におよぶ。それを逐語おこしで文字テキストに変換するのは、ほとんど苦役に等しいと嘆く人がいるほど長時間におよぶ作業だ。インタビューの密度やトランスクリプト・ルールなどによっても異なるが、トランスクリプターを使ってパソコン入力するには、慣れた人でも一時間のインタビューに四時間から六時間を要することを『覚悟』しなければならない。ところが、この『苦役』がさまざまな解釈を生み出す知識の『宝庫』であり、語り手でなく『自己』の発見にもつながる過程であることに気づくには、それほど時間はかからない。何回かの経験で十分だろう。この過程がエキサイティングな珠玉の時間なのである」（桜井 2005 : 132）という。

今回、トランスクリプトにあたっては逐語おこしで書きおこしたが、実際のその場の雰囲気とか臨場感とか微妙なニュアンスとかを上手く文字化し、読み手に、正確に伝えることが非常に難しいと感じた。それにトランスクリプトの作成には慣れていないこともあって桜井がいう以上に思わぬ時間がかかった。経験不足で不慣れな場合、スムーズなトランスクリプトの作成を行うためには桜井がいうように解釈を生み出すエキサイティングな珠玉の時間と捉えるのではなくむしろ解釈をまじえず機械的に正確に逐語おこした方がよいのではないかと感じた。

4. まとめ

インタビュー調査は、聞き手と話し手の協同作業であるといわれるが、聞き手と話し手の関係はそれぞれの年齢や性別、社会的地位などによって非対称になることが考えられる。佐藤は大学院生のとき、北山刑務所で父親と同じくらいの年齢の人に「先生」と呼ばれ、かなり心理的に負担になったという（佐藤 2002 : 9）。また、桜井は「インタビ

ューアーは専門家であって社会的地位も高い場合が多い。(略) インタビューアーの権力が強い場合、語り手はインタビューアーの聞きたいストーリーを語る傾向があるといわれる。それに『わざわざ遠くから来た大学の先生に手みやげでももたさないと』といった、語り手の心遣いもある」(桜井 2002 : 258) という。今回のインタビューアーの二人とは初対面だったが、依頼の仕方と言及したように、依頼する段階である程度のお互いの情報が伝わっていること。テーマの「阿波おどり」については、聞き手にもある程度が知識があり、かなり共通した話題もあったこと。職業的にも共通性があったこと。また、年齢的にもそう大きな開きがないなど、比較的対称的であったので、インタビューそのものはやりやすかった。

しかし、「下調べ」がかなり不足していたこともあり、トランスクリプトをみれば、ポイントに気付かず肝心なところで突っ込んだ質問ができないなどインフォーマル・インタビューの特徴である臨機応変に質問ができないなど反省点も多い。また、録音器具の操作に慣れていないなど技術的な問題も生じた。インタビュー調査を実際に行う場合には、依頼の仕方、機材の準備、柔軟かつ多様な展開を想定した質問内容の検討など周到かつ入念な事前の準備が必要であること。さらにかなり技術的な熟練も必要なことがわかった。

桜井は「調査者の個性に応じてそれぞれのインタビューの手法があり、それにもなる解釈の仕方があるとするならば、それぞれのライフストーリー・インタビュー経験をもとに自らの研究法を身につけていくことこそが望ましい」(桜井 2005 : 8) という。

また、ジェラルド・サトルズは「何にもまして、フィールドワークというのは^{わざ}技芸 (craft) ¹⁵なのであり、本を読むだけで学べるようなものではないということを肝に銘じておく必要がある。ブロック積みのようなものである。コツをつかむためにはまず自分の手でやってみなければならない。試行錯誤もあれば、練習の必要もあり、徒弟修業の期間もある。この^{わざ}技芸¹⁶の多くの部分は口伝や模倣を通して教えられるものである。いまだ明らかになっていない側面もある。実際にやってみる前に、フィールドワークに関して書かれた本を読むのに余り時間を費やさないことである。第一、フィールドワーク調査が好きになれないかもしれないし、もともと調査には向いてないのかもしれないのだ。誰もがブロック工にはなれる訳ではないように」(Suttles 1984=2000 : 44-45) といっている。佐藤も「フィールドワークは、テクニクというよりは『技(わざ)¹⁷』としての性格が強い。一種の**見習い修行**¹⁸は不可欠のプロセスである」(佐藤 1992 : 8-9) といっている。

確かにサトルズがいうようにフィールドにでて、実際にフィールドワーク調査を行ってみるとフィールドワーク調査に向いていないかもしれない。フィールドワーク調査に

限らず人には向き不向きがあるだろう。しかし、対象となる事例によっても向き不向きが変わってくることも考えられるし、インフォーマントとの関係（相性）によっても異なるだろう。また、調査領域に対する調査者の興味関心、理解度、知識量などによっても状況は変わってくるだろう。したがって、インタビュー調査は何にもまして、実際にやってみること、実際にフィールドにでて経験を積み重ねることである。それは佐藤がいうように「一種の見習い修行」を積み重ね「技」を磨くことであり、経験を積み重ねるなかで自分にあった調査方法を探すことである。そうすることによって桜井がいう「先行研究の経験に学びながら、なによりも『自分なりの研究法』を確立していく」（桜井 2005：7）ことができるのではないだろうか。

【注】

1 阿波おどり連

阿波おどりをおどるグループのことを連（れん）と呼ぶ。本文、調査対象者の選定のところで言及したように有名連や企業連、学生連などさまざまな形態がある。自由に創れるため連の総数は1,000以上あるといわれている。

2 有名連

有名連といわれるのは、長年にわたって踊りを続けている技術的に洗練された集団で「阿波おどり振興協会」「徳島県阿波踊り協会」に属している連をさす場合が多い（阿波おどり会館のパンフレットなど）。なお、おどりの団体は他に「徳島県阿波おどり保存協会」がある。また、苔作や娯座留などのように団体に所属していないが有名な連もある。

3 組織に属さない有名連

打楽器のみでビートの効いたリズムとテンポの速いおどりの個性派集団、苔作（1968年結成）やおどりの名手といわれる四宮生重郎さんが1989年に創立した女性のハッピー踊りが中心の娯座留などは協会に所属していないが人気がある。

4 あらそわ連

徳島県国際交流協会が中心となって国際交流員やAET（英語指導助手）などが参加する国際色豊かな連。連の名前は「争そわないように」という願いを込めて名付けられたといわれている。

5 にわか連

1977年から行われている本場の阿波おどりを体験したい人が飛び入りで参加できる連。阿波おどり本番の8月12日～15日の4日間、18:30、20:30の2回実施される。有名連の手ほどきうけ演舞場でおどれるため人気があり、毎回、多くの参加者がある。

6 ルビ，原文.

7 毎日おどる阿波おどり

毎日おどる阿波おどりは大阪万国博覧会が行われた 1970（昭和 45）年に観光客向けにはじめたみせるための阿波おどりで，現在は阿波おどり会館で毎日午後 8 時から有名連が出演して行われている。

8 2006 年 6 月 30 日（金）に行った鶴瀬連長へのインタビューによる.

9 ふくよかな体型は，えびす連のホームページの連長の自己紹介から引用.

10 専属連

阿波おどり会館のオープン時に結成された阿波おどり会館の専属連で，連の名前を「阿波の風」という。平日は 1 日 3 回（14:00~15:00~ 16:00~），土・日・祝日は 1 日 4 回（11:00~ 14:00~ 15:00~ 16:00~ ）定期上演している。

11 ルビ，原文.

12 （）内の注，筆者.

13 2006 年 6 月 30 日（金）に行った鶴瀬連長へのインタビューによる.

14 2006 年 7 月 7 日（金）に行った野藤副連長へのインタビューによる.

15 ルビ・（）内の英語，原文.

16 ルビ，原文.

17 （）内，原文.

18 強調，原文.

【引用文献】

森俊太，1997，「インタビュー調査とリアリティ構成—日本人留学生の社会構築」北澤毅・古賀正義編『〈社会〉を読み解く技法』福村出版.

桜井厚，2002，『インタビューの社会学—ライフストーリーの聞き方』せりか書房.

———，2005，『ライフストーリー・インタビュー—質的研究入門』せりか書房.

佐藤郁哉，1992，『フィールドワーク—書を持って街に出よう』新曜社.

———，2002，『フィールドワークの技法—問いを育てる，仮説をきたえる』新曜社.

Suttles Gerald，1984，*Some Rules of Thumb for Doing Fieldwork*, Unpublished Teaching Material. (=2000，佐藤郁哉訳「フィールドワークの手引き」好井裕明・桜井厚編『フィールドワークの経験』せりか書房.)

えびす連ホームページ (<http://www1.quolia.com/ebisuren.tokushima/>)

インタビュー論

——対話的構築主義という立場に示唆をうけて

人間自然環境研究科 科目等履修生 中恵 真理子

1. 本レポートの目的

桜井『インタビューの社会学』によれば、インタビューには、「実証主義」「解釈的客観主義」「対話的構築主義」という三つの立場があるという（桜井〔2002:24-31〕）。私は、この「対話的構築主義」に示唆を受けた相互行為分析という立場に立ち、私の行った過去のインタビューの再解釈をしたい。私は、昨年、生活保護を受給するうえで、自立の助長という名目で保護担当職員によってなされる就労指導のかかえる問題で、小論を書いた（「貧困問題の現代的位相」『平成 17 年度 徳島大学 総合科学部 榎田ゼミナールゼミ論集』）。

私は、インタビューに先立ち一つの視点を持っていた。それは自立の助長は自立を生まないというものである。私はこの小論では先の視点を直接ぶつけたものについて保護ずれという言葉で事実があるという肯定の部分とそれがより細かい指導によって乗り越えられるという彼の主張しか取り上げなかった。私はこの点について幾つかの不満を持っており、それが今回のレポートを書くきっかけとなった。一つめの不満として、先の取り上げ方では、好井も述べているように語り手から情報を引き出し、裏取りをするようなインタビューになってしまい、そもそもそれがどのような文脈、相互行為の中で行われたのか厳密性を欠くことになること（好井〔2006:131-133〕）。二つめはインタビューは全体として考察し、当初聞き手が意図になかったことでも、そのときその場でなされたインタビューの固有性・独自性こそ目を向けるべきではないかというものである。三つ目に二つめのこのインタビューの固有性からくるものであるが、インタビューの持つ困難さと可能性について考察したいというものである。

昨年、このインタビューを行ったとき、語り手にこちらの意図を読まれ、はぐらかされた、否定されたという印象をもった。しかし同時に実は聞いたかったことは聞いたのではないかという意気込みもあったが、それを表現するのに非常な困難さを感じた。

このインタビューの録音テープを聴くと観察可能であるが、聞き手である私の落胆の溜息や期待からずれていったことを示す相槌がいくつかある。声のトーンの変化を聞けば分かるように、語り手の話に期待する相槌からその相槌をきっかけとして語り手が話をずらしたと捉える、落胆の相槌である。また語り手もこちらの表情と相槌から聞き手の解釈を統制しようとして声が大きくなるというトーン変化がある。それは昨年引用した就労指導をめぐるやりとりにおいても見て取れる。

私：あの： 指導がこう翻って：↑ あの例えば、私の感覚なんですけれども、あの； ま
A：
私： 寄る辺がないといいますか、ケースワーカーさん以外に寄る辺がない、ここでお金が
A： うん
私： 頂けなくなったら：あの： なんと言いますか、生活できないわって思っている人がで
A： うん
私： すね、指導を受けていたら、余計こう、なんと言いますか、自立ではなくて受動性の
A：
私： 方を強める↑っていうようなこと、ない、あるんじゃないかと思うんですけど。
A： うん、うん
私：
A： hahah いわゆる保護ずれというやつね（.）ありますよ。実際ね、ほれはね。現実
私： ほう：： そうですか：↑
A： ありますよ。＜しかしほれはねさっき言ったことで解決できるんやと思うんやけど＞
私： はい はい はい はい↓：
A： やっぱりほの＜ほういう人分かりますよ。話しよって＞意欲無くなってきたって話
私：
A： したら分かりますし：： ちょっと話したら分かりますし、そこをどうするかっていう
私： はい
A： ときに今の現状の一人90ケースとかっていうんでは、そのの、家庭、家、世帯にね
私： あの はい↓
A： ほなやっぱり入って行ってね（.）話をするとかって言うのが非常に難しいんですよ。
私：
A： 一人担当するケースが少なくなれば：それだけ、まあ、入っていけるっていうのもあ
私：
A： るんで、そこで解決していく：かな： という気はしますけどね。
私： はい↓

このやりとりを見ると、保護係長は、いったんは指導が保護ずれを招くと肯定しながら、私の期待の相づちによって、その原因は指導が不十分だからこそであって、ケースワーカーを増やし、もっと受給者の内面にまで入り込めるような指導をすることによってこそ解決できると、私の問いそのものを無にしている。

このことは何を意味するのであろうか。このインタビューの相互行為そのものに、一種の対立が見て取れるのである。私はこの相互行為を分析することによって先の三つの不満が解決されるのではないかと考えたのである。

2-1. 語り手と聞き手というカテゴリー対

それでは、この相互行為を分析するうえで、道具となるカテゴリー対は何であろうか。当たり前であるがそれは聞き手と語り手である。三浦によれば、語り手はインタビューという場で、様々なまなざし（カテゴリー化の罫）をうける。氏は、自身の行ったインタビューで、突然語り手から、原稿を書かないでくれという電話を受け、如実にフィールドに出会ったという経験を書いている（三浦〔2004:201-220〕）。私はインタビューが行われているまさにその場でフィールドにであったのではないかと考えるのである。すなわち、インタビューの中で語り手は聞き手による意味の解釈に抵抗し、自身による受け入れ可能な物語の統制を試みたのではないのだろうか。単なる情報提供者の語りとして扱うのではなく彼が指示している解釈の方を読み解こうとすれば、彼がどのような現実を生きているのか、見えてくるのではないか。

2-2. 専門家と一般の人というカテゴリー

それでは、彼(保護係長)はどのようにして解釈に対しても統制を行おうとしたのか。それはインタビューの最初の話題のときに、「一般の論調として」という言葉で、私を指し、語り手—聞き手という受動的な立場から、専門家—一般の人（素人）という立場に切り替えようとする実践がある。

(適正受給が求められすぎると指導が厳しくなるのではないかという問いに対して)

A: 厳しすぎるけんどうこうという問題はないと思うんです。ある意味厳しくせな: あかん部分もあると思うんで。そこをまあ勘違いって言い方悪いな、誤解というかね(.)されとる部分もあるんかも分かんですけどもね。いや、一般の論調としてですよ。

このような語りは、私の未熟な問いかけが誘導したものではあるが、結果として、専門家対素人に対する説得という相互行為を可能にした。以下は説得の中身である。

2-3. 共感に訴える説得

生活保護のあるべき理想をあなたも当然そう思うでしょというニュアンスで語られている場面が何度かある。「利用するだけ利用して出て行ってくれたらいいんですが。」「三月、四月利用して、保護から離れていってくれるのが本来の姿で合うよね。そういう人なら・・・(聞き取れなかった)。」それと同様に濫給になる恐れのある事例(彼が見なす)に対して当然嫌悪感を持つでしょという語りもある。「離婚したら保護うけられるんですか」「仕事止めようと思うんやけど保護受けられますか。ほら気楽に来ますよ。」などがそうである。

さらに最近の生活保護に対する見方についても批判的な意見が見られる。「ハウトゥー生活保護やいう本もありますし、負け組の生き残り方やいう人もおるし。」などがそうであ

る。

2-4. 保護係長としての自負

A市は保護率の低い市町村である。彼が保護係長についてから二・三年は保護率が下がっていたが、その後、不況のため保護率が上がってきた。しかしそれは、職員の配置が、60人に一人のケースワーカーから90人に一人のケースワーカーになって、きめ細かい就労指導が困難になったことにも原因があると捉えている。就労指導に至らないまでも生活指導のレベルでも、もっと指導が必要だという。保護担当になって、12年になるが、なった当時は、「家に入って丸一日話してくることも出来た。お互いの信頼関係も出来て、些細なことでもはなしてくれた。こちらもこれが必要だと、提示してあげられた。」理想的な状態だったという。また彼は、保護を廃止して経済的自立のみを自立と捉えるような自立観にたっているわけでもない。「高齢者がいろんな制度を活用して家でねずっと自分で生活していけるというようなフォローが昔なら出来たんですよ。今の状況を見たとき、それが出来んようになってるので、もっと人がほしいなと思っています。」という語りからもそれはみてとれる。そうしたフォローの中には申請当初に行われる扶養義務者への連絡でも、文書だけにとどまらず、積極的に、橋渡しをしているようである。「ほら、いるんですよ。どうしようもない人って言うのが、こんな段になって、今まで好き勝手しよったのに、いうてこられたって知らんわとかね。そういう場合でも、できるだけ孤立せんようにね、ねばり強くこちらが話していけば、ほな、連絡してくれてもええわという風になることもあるんですよ。」こうした橋渡しは、血縁だけにとどまらない。「近所の中でもね、あの人話したこともない。っていう場合もあるんですが、A市ではまだアパート全員が保護を受けるといふばあいがあって、みんなで声かけあってもらったりすることもあるんですよ。」ということである。そして、「やりかたとしてうちは間違ったことはしていない。」と強調していた。

3. 結語

保護係長の物語を描くのならA市は濫給にも漏給にも至っていない、しかも受給率の低い理想状態にあると言うことであり、それを可能にしているのは、時には縁の途絶えた肉親・近隣の人にも橋渡しをし、保護から離脱するまで、手厚い就労指導を行っているということである。問題なのは近年の不況による受給者の増大に対してそれに見合うだけの職員の増大がないということである。指導が不十分であるがために「保護ズレ」がおきているという解釈である。それでは、どうして、私の「指導がかえって自立に結びつかないのでは。」という問いに対して、否定、そして根拠というながれではなく、いったん肯定そして強い否定というながれになってしまったのだろうか。

冒頭でも述べたように、このインタビューの際、わたしはこちらの意図を読まれた、はぐらかされたという印象をもった。それは、わたしのあいづちや、期待のこもったまなざしや落胆のため息を受け、私の問題意識を敏感にすくい取るだけでなく、その問題意識について、否定のメッセージを、込めていたのだと考えられるのである。彼の言う「離婚したり、仕事をやめたけん、保護うけられますか。」とあって、単身でしかも気軽に福祉事務所をたずねてくるのは、わたしのような意識を持っている人ではないか。そういう読みがあったような気がするのである。そのような若者（わたしのような）は、一人で独立して生活をする上で、生活保護は、権利として受給でき、かろうじて面目を保つための最後の砦である。これは、現在の保護政策では受け入れがたい対象である。このような若者の弱点は、親族や地縁との橋渡しである。しかも、保護を受けられた場合は、かばう親族もいないため、ケースワーカーのいいなりになって、就労意欲をみせつづけることをし、長期的な展望に立って、保護から離脱する計画をたてられない人でもある。だからこそ、私は、指導の行き過ぎに問題をみだし、係長は、そのような関係性のありかたにこそ問題を感じているのではないか。一般の人としての聞き手である私を説得しようとする語りから見えてくるのは、漏救の恐れといきすぎた指導と感じ取れないこともない。そういう意味では、このインタビューを行う前に持っていた視点は肯定されたようにも思える。

しかしながらインタビューを仮説の検証という結論を導くためのものと扱うのは、意味のないことであるし、正しいことでもないと考える。

社会リアリティの変化によって、社会の大きなループが存在しないと考える(檜田 [2006:260-264])以上、社会像の検証という意味は、もはやない。インタビューは、それがなされた時の固有性、語り手の生きるリアリティを読み解くことのみ意味のあることだと考える。それ故、インタビュー解釈も相互行為分析によってなされるべきであると考え。その場合、研究者も特権的な地位から退き、場面に生きる人間としての限界を引き受けることになるにしてでもある。

参考文献

- 檜田 美雄 2006 「フィールド研究の倫理とエスノメソドロジー」平 英美他編『新版構築主義の社会学』 世界思想社
- 三浦 耕吉郎 2004 「カテゴリー化の罫」 好井他編『社会学的フィールドワーク』世界思想社
- 桜井 厚 2002 『インタビューの社会学』 せりか書房
- 好井 裕明 2006 『あたりまえを疑う社会学』 光文社

注 このレポートに使用されているトランスクリプト記号

<> 急いで発話されていることを表す

(。) 沈黙

↑ 音調が上がっていることを表す

↓ 音調が下がっていることを表す

: 直前の音が伸ばされていることを示す

h h 呼気音を表す

第IV部 付録

添付DVD収録データ一覧

調査実習報告書ならびにゼミ論集データ

- 1: エスノメソドロジーとその周辺
ー平成9年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー 1998年3月発行
- 2: ラジオスタジオの相互行為分析
ー平成9年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第二版)ー 1998年10月発行
- 3: エスノメソドロジーと福祉・医療・性
ー平成10年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー 1999年2月発行
- 4: 障害者スポーツにおける相互行為分析
ー平成11年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第一版)ー 2000年2月発行
- 5: 日常生活の諸相
ー平成11年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー 2000年2月発行
- 6: 現代社会の探究
ー平成12年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー 2001年2月発行
- 7: インタビューと対話の相互行為分析ー気配りと配慮の社会学ー
平成14年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第一版) 2003年2月発行
* 本文データは未掲載
* 調査実習報告会関連資料 ・7ー補 a (調査実習報告書添付 DVD 収録データ)
・7ー補 b (調査実習報告書添付 DVD 未収録データ)
- 8: インタビューと対話の相互行為分析ー気配りと配慮の社会学ー
平成14年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第二版) 2003年9月発行
- 9: 社会学の窓ードラマティックな日常生活ー
ー平成15年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー 2004年2月発行
- 10: 義肢・装具のエスノメソドロジー
ー平成16年度徳島大学総合科学部地域調査実習報告書ー 2005年2月発行
- 11: 生活の中の相互行為
ー平成17年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー 2006年2月発行
- 12: 鍼灸インタビュー
* 本体データは未掲載
・12ー補 a (平成18年6月9日_MP3データ)

徳島大学総合科学部社会学研究室報告 既刊 (国立国会図書館等所蔵)

- | | | |
|----|---|------------|
| 1 | エスノメソドロジーとその周辺
ー平成9年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 1998年3月発行 |
| 2 | ラジオスタジオの相互行為分析
ー平成9年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第二版)ー | 1998年10月発行 |
| 3 | エスノメソドロジーと福祉・医療・性
ー平成10年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 1999年2月発行 |
| 4 | 障害者スポーツにおける相互行為分析
ー平成11年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第一版)ー | 2000年2月発行 |
| 5 | 日常生活の諸相
ー平成11年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2000年2月発行 |
| 6 | 現代社会の探究
ー平成12年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2001年2月発行 |
| 7 | インタビューと対話の相互行為分析ー気配りと配慮の社会学ー
平成14年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第一版) | 2003年2月発行 |
| 8 | インタビューと対話の相互行為分析ー気配りと配慮の社会学ー
平成14年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第二版) | 2003年9月発行 |
| 9 | 社会学の窓ードラマティックな日常生活ー
ー平成15年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2004年2月発行 |
| 10 | 義肢・装具のエスノメソドロジー
ー平成16年度徳島大学総合科学部地域調査実習報告書ー | 2005年2月発行 |
| 11 | 生活の中の相互行為
ー平成17年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2006年2月発行 |

鍼灸のエスノメソドロジー

(平成18年度 地域調査実習報告書&大学院人間・自然環境研究科地域社会論Ⅲ・社会組織論レポート集)

発行日 2007年2月21日

編集 榎田美雄

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1丁目1番地

(088) 656-9308 E-mail:kashida@ias.tokushima-u.ac.jp

<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/index.html>

発行 徳島大学総合科学部社会学研究室
